乗用草刈機

取 扱 説 明 書

ご注意

◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。

◆記載内容を十分理解してから、乗用草刈機の取扱いを開始してください。

◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要なときにすぐ参照できるよう乗用草刈機の近くに保管してください。

乗用草刈機重要安全ポイント

1．運行前には、必ず始業点検を行い、
　　特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、確実に整備します。

2．路肩・軟弱地で使用するときは、
　　転落・転倒しないように十分注意します。

3．坂道で使用するときは、
　　急旋回・Ｕターンは避けます。

4．運転・作業をするときは、
　　保護カバー類が取り付けられていることを確認します。

5．機械の清掃・点検・調整・燃料補給をするときは、
　　必ずエンジンを止め、ブレーキをかけます。

6．補助者と共同作業を行うときは、
　　必ず合図をし、周囲の安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい
事項を ⚠重要 の記号を付して説明のつど取りあげております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

重要なお知らせ

●このたびは、アテックス乗用草刈機をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

●この取扱説明書は、乗用草刈機を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項、乗用草刈機を最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。

●乗用草刈機を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。

●本商品は乗用草刈機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業に使用した場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

●株式会社アテックス（以降当社と記す）はこの取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、アテックス乗用草刈機（以降乗用草刈機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。

●この乗用草刈機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。
したがって、この取扱説明書の記載事項や乗用草刈機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、乗用草刈機の操作、または日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および乗用草刈機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。

●乗用草刈機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取扱い、整備いかんによることも、また看過できません。

●この乗用草刈機は国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この乗用草刈機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等による問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

重要なお知らせ

●傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の乗用草刈機の使用や、この取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

●本乗用草刈機を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を乗用草刈機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。

●この取扱説明書の内容は乗用草刈機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。

●本乗用草刈機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。また、イラストの一部は乗用草刈機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。

●この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。

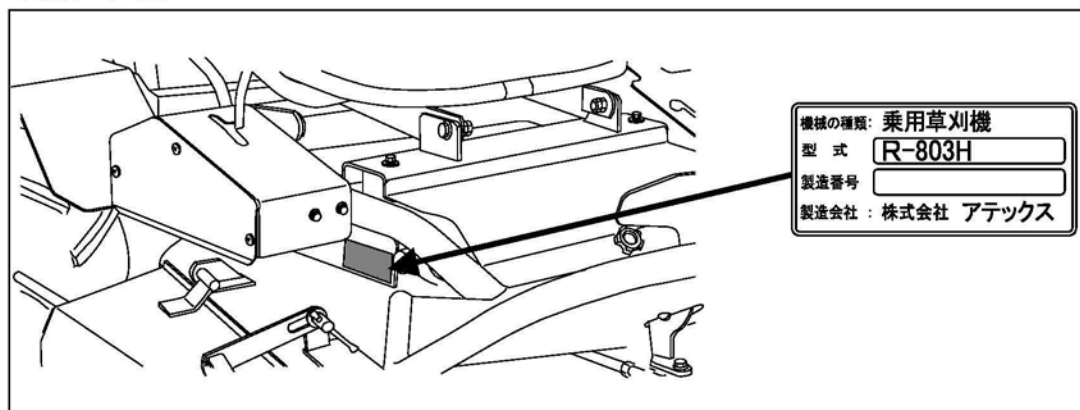
●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。

●さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式について併記してあります。

お買上げいただいた乗用草刈機の型式を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置

■仕様

型　　式	装備内容	刈　幅
Ｒ－８０３	種類：空冷Ｖ型２気筒ＯＨＶガソリンエンジン 型式：カワサキＦＨ３８１Ｖ 最大出力：９.７ｋＷ（13.0ps） 排気量：４３１cc	８００㎜
Ｒ－８０３Ｈ	種類：空冷Ｖ型２気筒ＯＨＶガソリンエンジン 型式：カワサキＦＨ３８１Ｖ 最大出力：９.７ｋＷ（13.0ps） 排気量：４３１cc ＨＳＴレバー標準装備	８００㎜

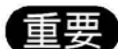
警告表示について

取扱説明書の中の ⚠重要 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しています。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しています。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しています。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

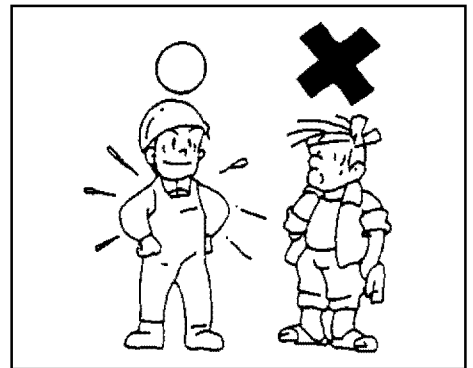
使用上のポイント

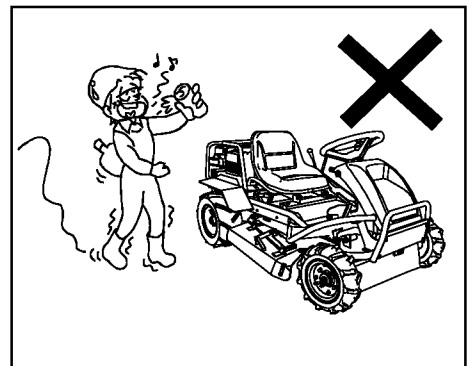
使用上のご注意

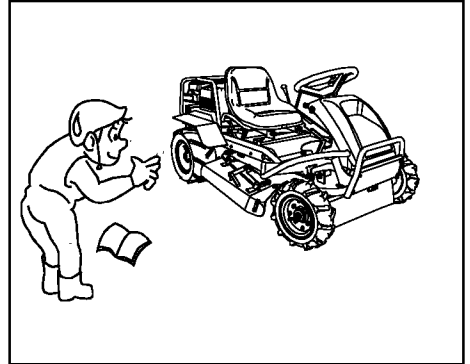
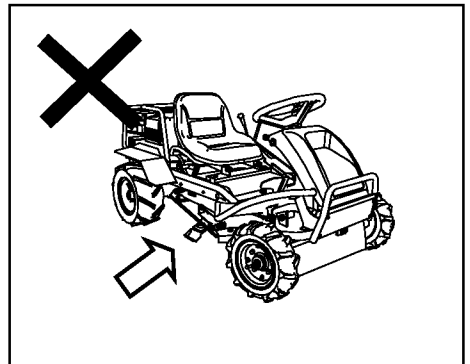
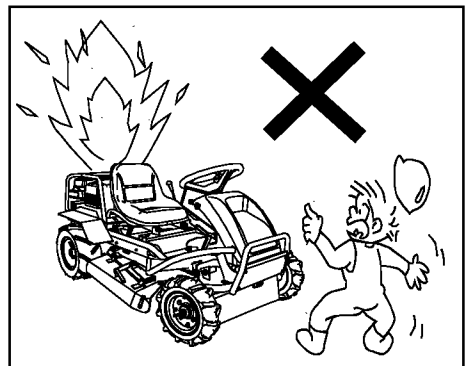
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

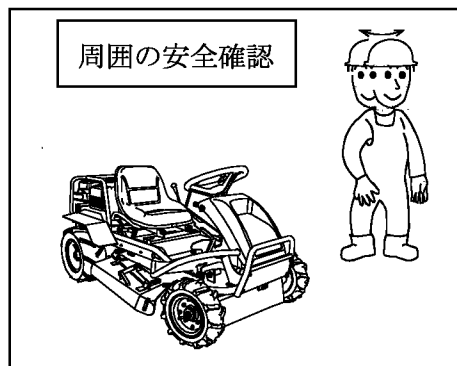
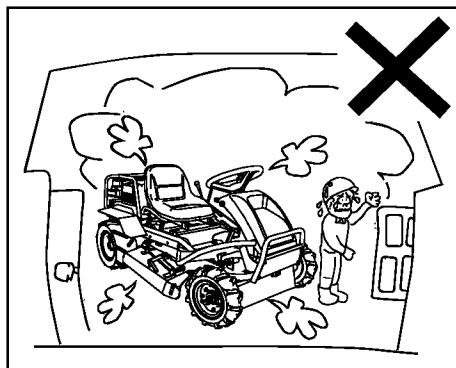
■運転者の条件

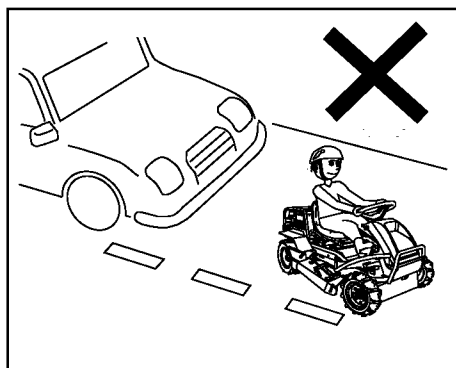
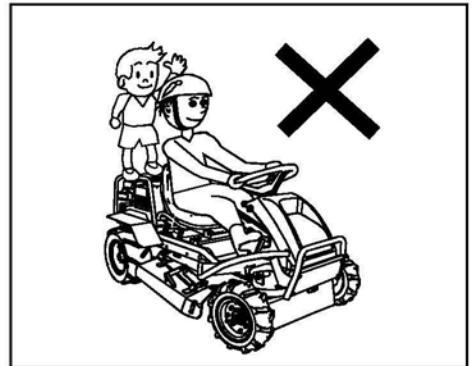
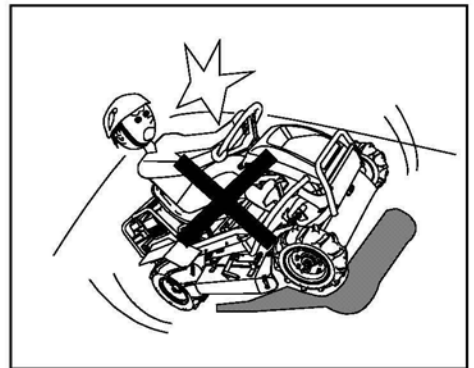
(1) 服装は作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。

ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

(2) 飲酒時や過労ぎみの時、または妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行なうと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

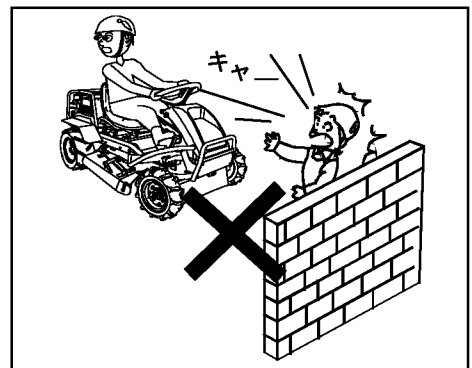
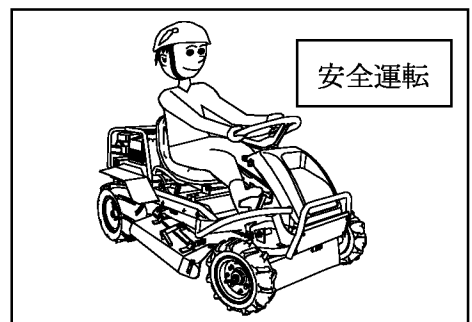
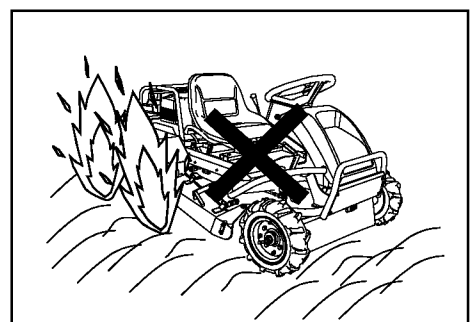
使用上のポイント

■作業前に

(1)　作業する前に、本書の**〈定期点検整備箇所一覧表〉**を参考に必要な点検を必ず行なってください。
（本書３９～４２ページ参照。）

(2)　保護カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

(3)　燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行なってください。
　くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

■始動と発進は

(1)　エンジン始動時は、周囲の安全を確認してください。
　本機に乗車し、刈刃クラッチレバーが「切」の位置にあること、刈高さ調整レバーが「エンジン始動」の位置にあること、ＨＳＴペダルおよび、ＨＳＴレバーが「中立」位置にあることを確認し、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。
　また発進時は、各レバー位置と周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。急発進は危険です。

(2)　室内でエンジンをかけるときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排ガス中毒を起こし大変危険です。

■走行するときは

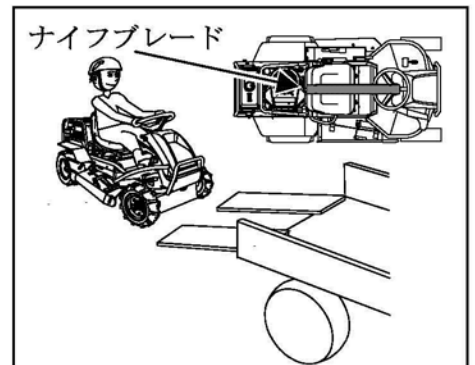
(1)　本製品は、ほ場内作業車です。公道上では運行できません。公道で運行すると道路交通法違反になります。

(2)　本製品は一人乗りです。座席以外に人が乗ると、急発進、重心の移動等により転落し、ケガをする恐れがあります。
　二人乗り等、絶対に行なわないでください。

(3)　傾斜地は、低速で、まっすぐに上り下りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあり大変危険です。

(4)　坂道では、低速でゆっくりと走行してください。また、下るときにはエンジンブレーキをかけ、決して走行チェンジレバーをニュートラル状態にしないでください。本機が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。
　また、ブレーキの多用はブレーキを傷めると共に、スリップや、ブレーキの効きが悪くなる原因となり、大変危険です。緊急のとき以外は使用を避け、ＨＳＴペダルまたは、ＨＳＴレバーで速度を調節してください。

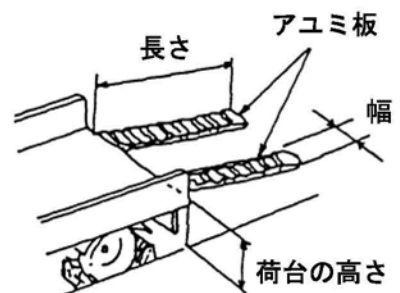
(5)　凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。

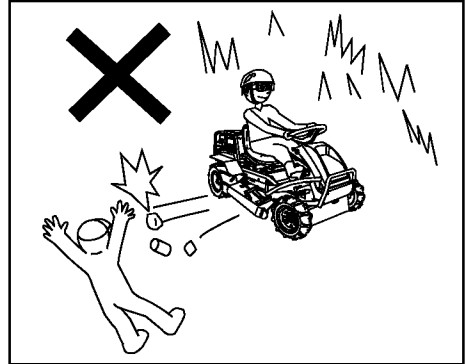
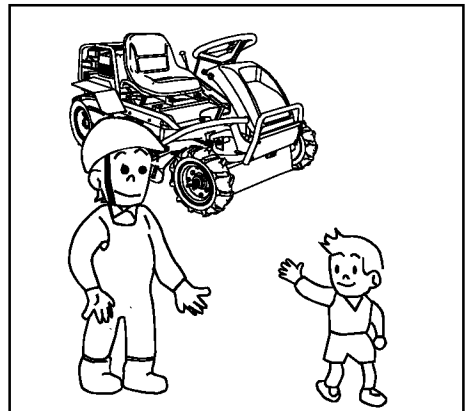
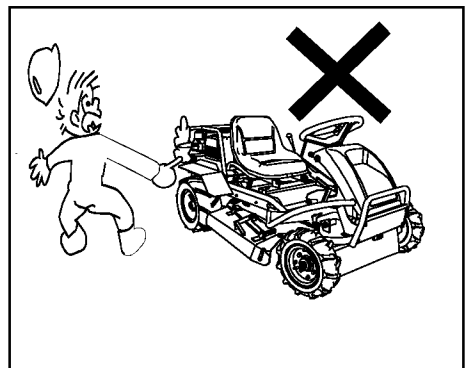
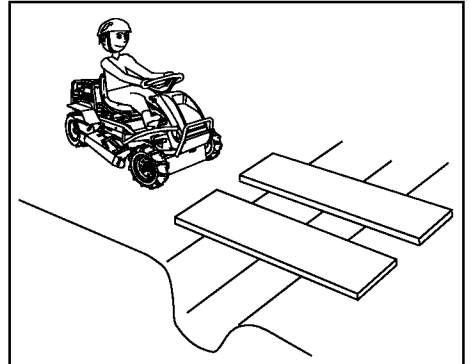
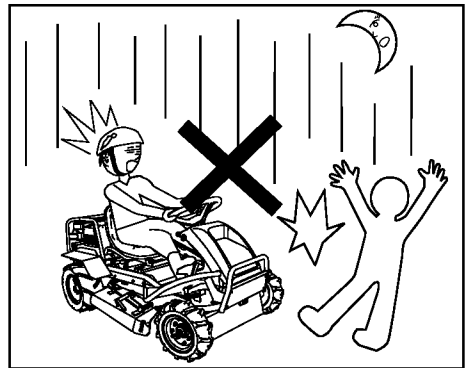
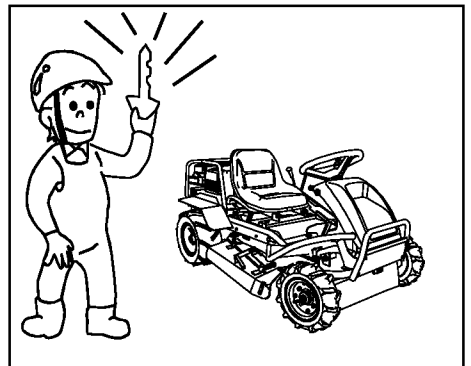
(6)　わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、周囲の安全を確認し、十分注意してください。

(7)　急発進，急加速，急旋回、および急ブレーキは避け、安全運転を心がけてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた地面での急旋回、および急停車は、スリップや転倒を招く恐れがあり危険ですので絶対にしないでください。

(8)　草やワラ等、可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガス等により可燃物に着火し、火災の原因となります。

■積込み・積降ろし

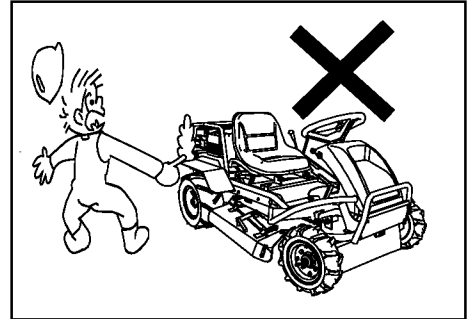
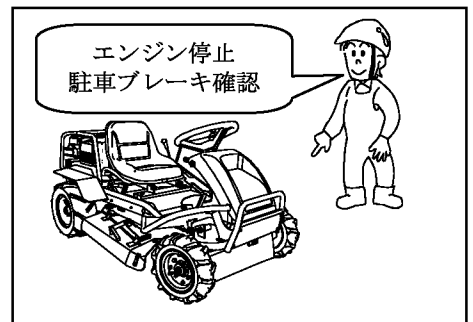
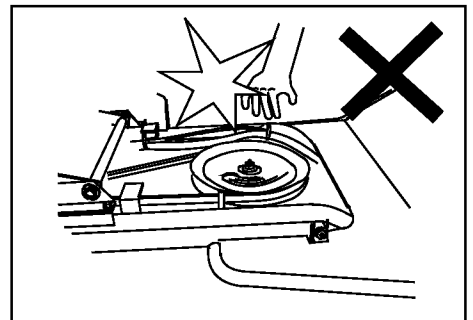
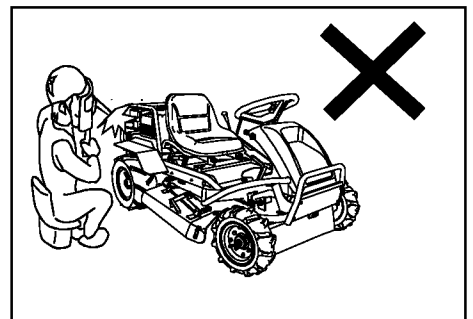
(1)　トラックはエンジンを止め、動かないよう駐車ブレーキ・歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2)　積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用して行なってください。積み降ろし時は本機のナイフブレードを前後方向に向け、直進性を見定め微速にて行なってください。

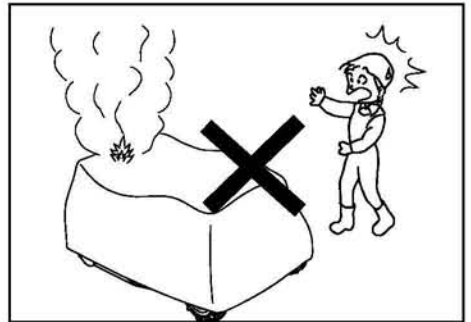
アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。

＜　アユミ板の基準　＞

●長　さ…車の荷台の高さの４倍以上
●　幅　…本機車輪幅の 1.5 倍以上
●強　度…車体総重量の 1.5 倍以上（１本当り）
●すべらないよう処理されていること。

■作業中は

(1)　草刈作業は、小石や異物が飛散します。作業を開始するときは、必ず周囲の人や建物・自動車等に被害が及ばないことを確認して作業してください。

(2)　作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(3)　運転中は、回転部や高温部（エンジン・マフラー等）等の危険部には手や体を触れないでください。傷害事故の原因となり、大変危険です。

(4)　溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これを怠ると、脱輪やスリップ等により転倒する恐れがあり大変危険です。

(5)　夜間作業等、周囲の状況が把握しにくい環境では、衝突・転落・転倒等、死傷する恐れがあり大変危険です。絶対に行なわないでください。

(6)　本機より降車する場合は、平坦堅固な地面で刈刃クラッチレバーを「切」にし、駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止し、キーを抜いてください。

■点検整備は

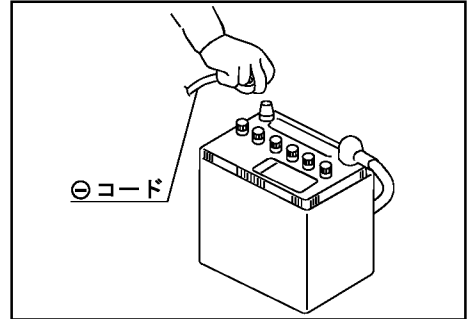
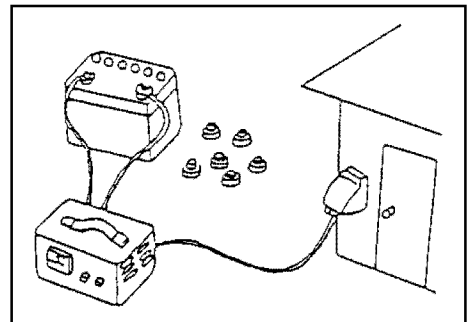
(1)　エンジンを切ってすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジンなどの高温部が完全に冷えてから行なってください。怠ると、火傷などの原因となります。

(2)　機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行なってください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。

(3)　点検整備で取り外した保護カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

(4)　機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。

■保管・格納は

(1)　動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

(2)　子供などが容易に触れないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

(3)　長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

(4)　長期格納をするときは、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショート、発火して火災の原因となり大変危険です。

■電装品の取扱い

(1)　電気配線の点検、および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キーを抜き、バッテリーの⊖コードを外して行なってください。これを怠ると火花が飛んだり、感電したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(2)　バッテリを取扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気は近づけたりしないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリの補水キャップを外して行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(3)　バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もしついたときは、大量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。

(4)　バッテリ液の液量は適正量で使用してください。

　バッテリ液が下限以下の状態で、使用（充電）を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあり大変危険です。

警告ラベルについて

■本機には、安全に作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。
　必ずよく読み、これらの注意に従ってください。

■警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。警告ラベルは「お買いあげ先」へ注文してください。

■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

■警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルも「お買いあげ先」へ注文してください。

■警告ラベルには、洗車時に直接高圧水をかけないでください。

警告ラベル貼付位置

警告ラベル貼付位置

危 険
機体がわずかに動くことがあります。
機体から離れるときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
0329-910-032-0
注 意
1．すべてのカバー・キャップ類を所定の位置に取付けて運転してください。
2．運転前には、必ず点検や整備をしてください。
3．点検・整備・給油は、エンジンを停止させ、刈刃が完全に停止した状態で行なってください。
4．エンジン始動時は、周囲の安全を確認し、本機に乗車し、刈刃クラッチレバーが「切」の位置にある事、刈高さ調整レバーが「移動」の位置にある事、HSTペダルが「中立」位置にある事を確認し、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。
5．急発進は危険です。ゆっくり発進してください。
6．傾斜地や、地面に凸凹の多い所は、低速で使用してください。
7．草刈作業は、小石や異物が飛散しますので、周囲の人や建物・自動車等に被害が及ばないことを確認して作業してください。
8．木の下の作業時は、木の枝等に接触しケガをする恐れがありますので、低速走行で十分注意してください。
9．本機より降車する場合は、平坦堅固な地面で刈刃クラッチレバーを「切」にし、駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止し、キーを抜いてください。
10．締め切った屋内では、エンジンを始動しないでください。排気ガスでガス中毒をおこします。
11．本製品は一人乗りです。座席以外に人が乗ると転落し、ケガをする恐れがありますので、二人乗りは、行なわないでください。
0670-910-039-1
警 告
積み降し要領
自動車への積み降し、アゼの乗り越えなどアユミを使用のときは、危険防止に注意のこと。
1．アユミ長さは、荷台高さの4倍以上のこと。
2．アユミは、ズレないようにしっかりとかけ、トラックは、エンジンを止め駐車ブレーキと歯止めのこと。
3．本機とアユミを真っすぐ（平行）にすること。
4．アユミ上で方向変換しないこと。
5．低速（1速又は、R速）で運転のこと。
6．必ず誘導者を付けること。
7．最上端では、機体の重心が移動し危険、注意のこと。
8．本機は、駐車ブレーキと歯止めをし、ロープがけのこと。
荷台高さ
アユミの長さは荷台高さの4倍以上
アユミ板の基準
○材質：金属製のスリップしないもの。
○強度：1本当り機体総重量に耐えられること。
○長さ：荷台高さの4倍以上
0453-910-028-0
危険
坂道で、ギヤ抜けすると死傷する恐れがあります。
走行チェンジの切替は、平坦地で確実にギヤを入れてください。
0673-910-018-0
危 険
刈刃カバーに手や足を近づけたり踏んだりしないでください。
高速回転の刈刃で大ケガをします。
足乗せ厳禁
刈刃カバーを取外した状態や、開けた状態では絶対に作業を行なわないでください。
高速回転の刈刃で大ケガをします。
警 告
刈刃カバー周辺は小石等の異物が飛散し、周囲（人や動物、建物、自動車等）へ被害が及ぶ恐れがあります。石等の異物は取除き、安全に注意して作業を行なってください。
0670-910-035-0
警告
やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
1675-905-007-0
警 告
ファンに接触し、ケガをするおそれがあります。
手や足を入れないでください。
0329-910-033-0

保証とサービス

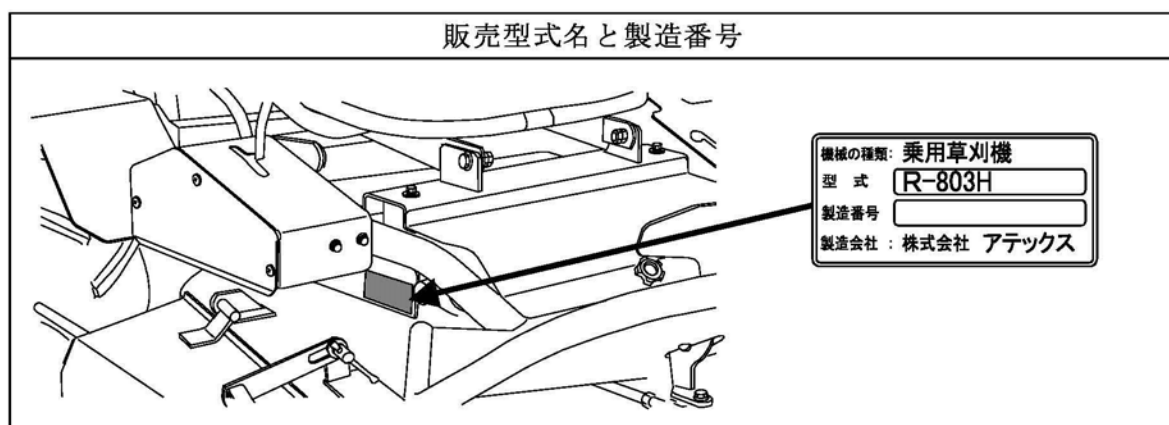
■新車の保証

この製品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は「お買いあげ先」へお気軽にご相談ください。

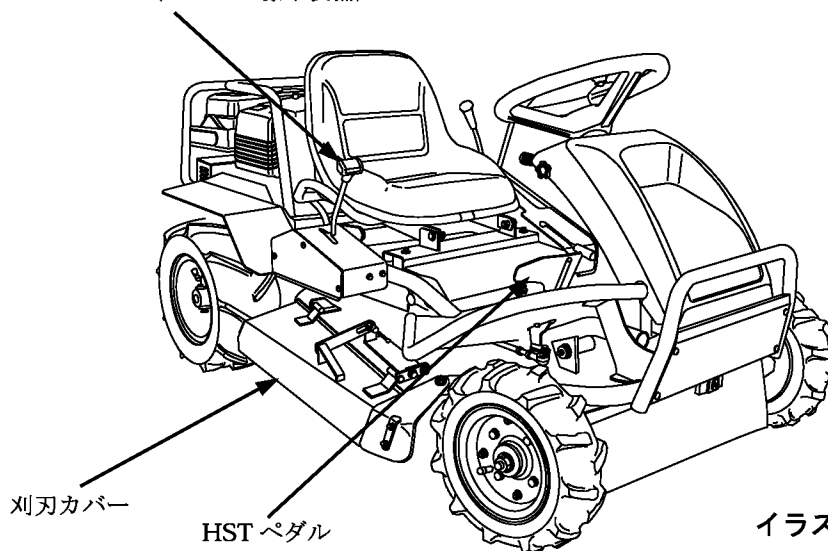
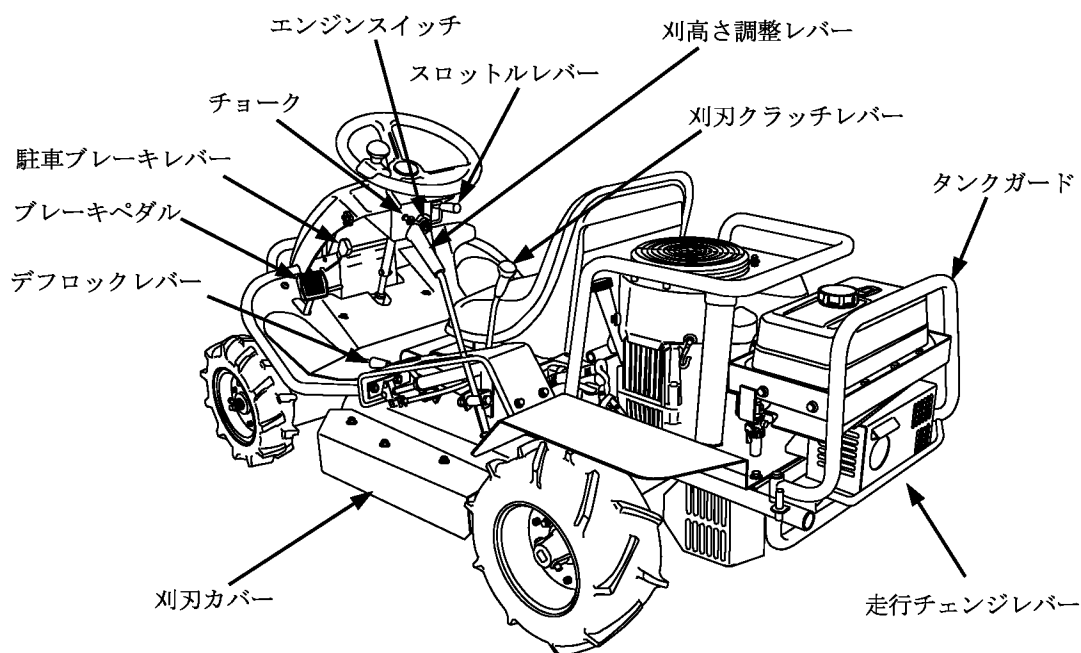
その際、販売型式名と製造番号をご連絡ください。

販売型式名と製造番号

■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後１０年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

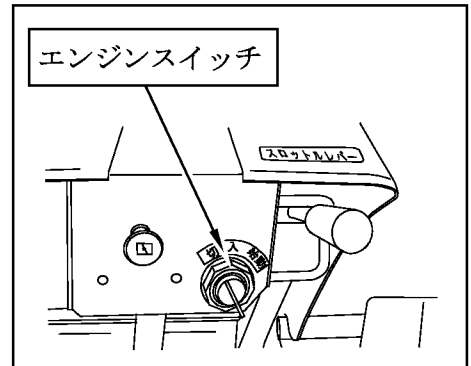
各部の名称とはたらき

各部の名称

各部のはたらき

■エンジンスイッチ

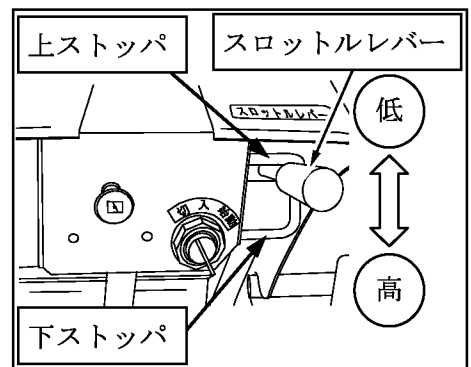
エンジンの始動・停止を行ないます。

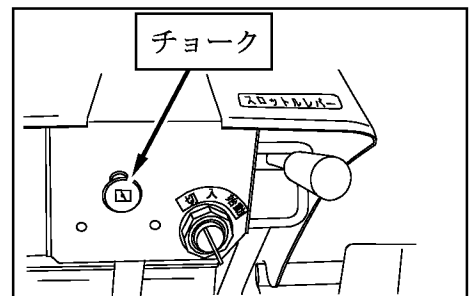
「切」　位置････エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
「入」　位置････エンジン回転中の位置。

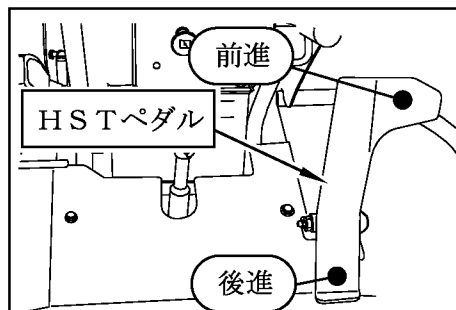
「始動」位置････エンジンを始動させる位置。手を放せば自動的に「入」位置に戻ります。

●本機を使用しないときは必ずキーを抜いて保管してください。
●エンジンの始動・停止について：本書２３～２６ページ参照。

■スロットルレバー

上ストッパ
スロットルレバー
低
高
下ストッパ

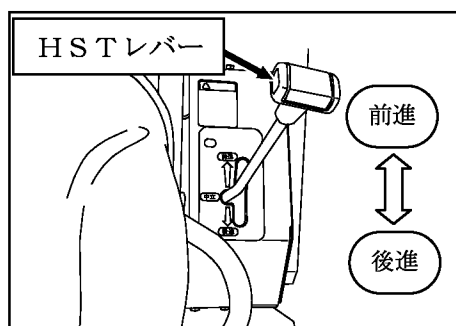
エンジン回転数の増減を行ないます。エンジン回転が最高の時に最大の馬力（パワー）を発生しますので、走行・作業時にはエンジン回転を最高に上げて使用してください。
●上ストッパ；エンジン低回転（アイドリング）
●下ストッパ；エンジン最高回転

■チョーク

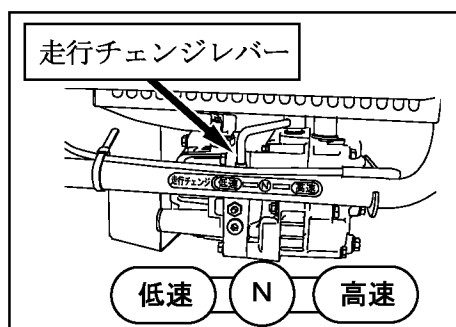
チョークを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時（低温時等）に引き、始動後、必ず戻してください。
（本書２４ページ参照。）

■ＨＳＴペダル

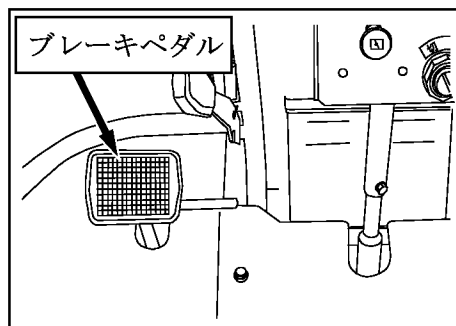
ペダルを中立より前方へ踏み込むと前進し後方へ踏み込むと後進します。ペダルを踏み込む角度を調節することで、走行速度を無段階に調節することができます。

■ＨＳＴレバー（R-803H 標準装備）

レバーを前方に倒すと前進し、後方に倒すと後進します。レバーを倒す角度を調節することで、走行速度を無段階に調節することができます。

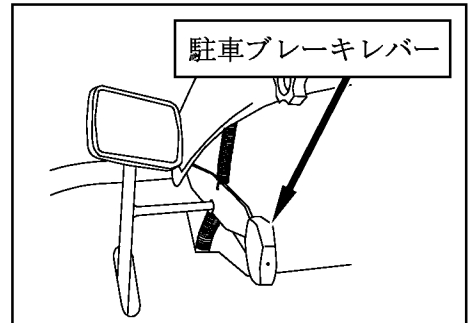
Ｒ－８０３ではＨＳＴレバーはオプションです。注文および取付は「お買いあげ先」に依頼してください。

●取扱説明書では走行操作をＨＳＴペダル，ＨＳＴレバーの両方で説明しています。

■走行チェンジレバー

走行速度の高速・低速を切り替えます。

■ブレーキペダル

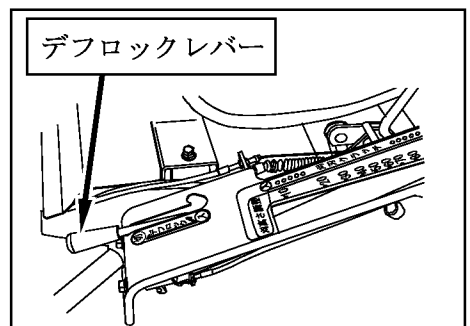
ペダルを踏み込むと、後輪にブレーキがかかると同時に、ＨＳＴ走行ベルトテンションクラッチが「切」になり車体を確実に停止させます。

■駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏み込んでこのレバーを手前に引くとブレーキペダルを「ロック」でき、駐車ブレーキをかけた状態になります。

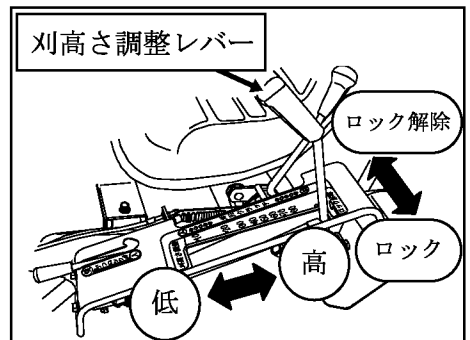
駐車ブレーキの解除はブレーキペダルを踏み込むことで「ロック」を解除できます。

■デフロックレバー

ぬかるみなどで後輪の片方がスリップし、走行が困難な場合に使用します。

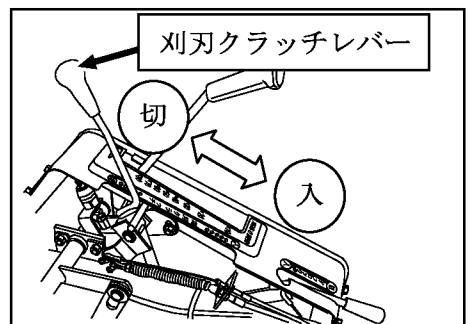
レバーを「入」にするとデフロック状態、「切」にするとデフロック解除状態となります。

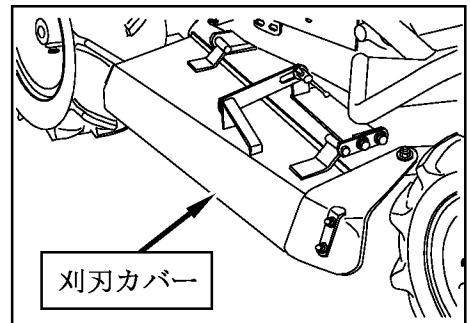
通常走行時は、必ずレバーを「切」の状態にして使用してください。

■刈高さ調整レバー

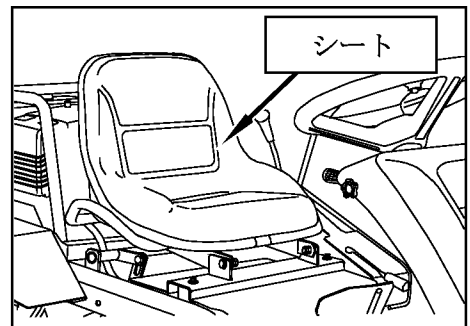
刈刃の高さを調整します。

レバーをシート（座席）側へ倒すとロックが解除され、刈高さが調整できます。調整後、レバーを外側に倒すと刈高さが「ロック」されます。

■刈刃クラッチレバー

刈刃の動力を入／切するときに使用します。レバーを「切」の位置にすると連動して刈刃にブレーキがかかり、刈刃が停止します。

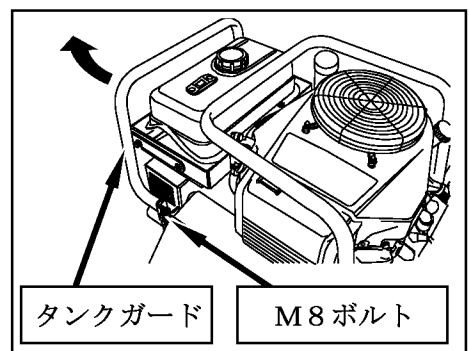
刈高さ調整レバーが「エンジン始動」位置ではレバーを「入」にはできません。

■刈刃カバー

作業時に小石や異物の飛散を防ぐカバーです。刈刃を交換する時に、このカバーを開けることで、刈刃の交換作業が行ないやすくなります。

■シート（座席）

作業者の運転席です。

■タンクガード

燃料タンクのガードです。

タンクガードを開けることで、エンジンのプラグの点検・交換やメンテナンスが楽に行なえます。

点検後は元の位置にもどし、確実にＭ８ボルト(２本)を締めて固定してください。

作業の準備

使用前の点検について

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は毎日欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

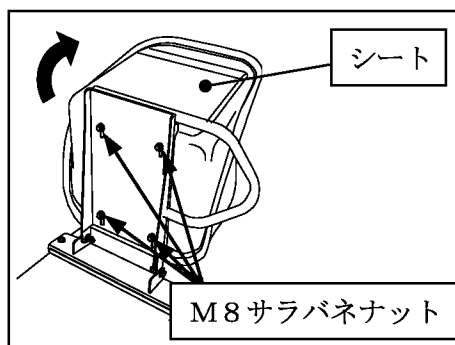
(1) 前日、異常のあった箇所の整備

(2) **〈定期点検整備箇所一覧表〉**の点検時期「始業」に○印がついている項目の点検を行なってください。
（本書３９～４２ページ参照。）

使用前の準備

■シート（座席）前後位置の調節

作業者の体格に合せて、シートを前後に調節できます。各操作レバー、操作ペダルの操作が確実に行なえる位置に調節してください。

(1)　シートを前方に倒します。シート底のM８サラバネナット４個を緩めてシートの前後調整をしてください。

(2)　シートに座り、各操作レバー、操作ペダルの操作が確実に行なえることを確認してください。

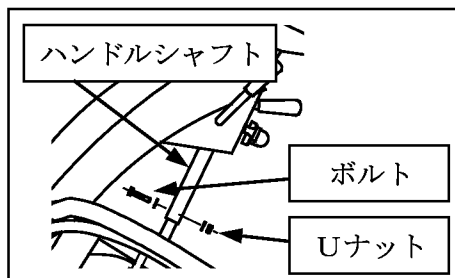
(3)　シートを前方に倒し、M８サラバネナット（４個）を確実に締めてシートを固定してください。

■ハンドル高さの調節

作業者の体格に合せて、ハンドルの高さを３段階に調節できます。ハンドル操作が確実に行なえる位置に調節してください。

(1)　ハンドルシャフトを固定しているボルトとUナットを取外してください。

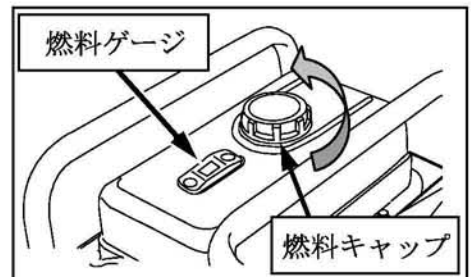
(2)　ハンドルシャフトを上下して高さを調節してください。

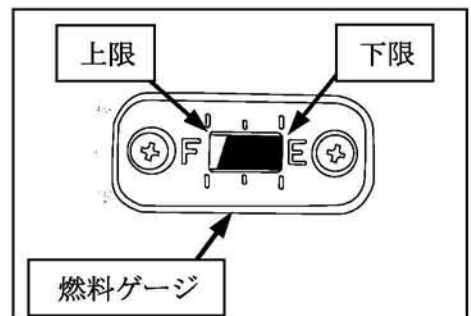
(3)　ボルトとUナットを確実に締付けてください。

■燃料の給油

⚠危険

- 燃料を給油するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。引火・爆発・火災の原因となります。
- 給油時は、車体を水平な場所に駐車させ、必ずエンジンを停止した状態で行なってください。
- 給油はエンジンとマフラーが冷えてから行なってください。
- 燃料を入れ過ぎないようにしてください。入れ過ぎると、燃料が漏れ出し、火災の原因となります。
- 燃料がこぼれた際には、速やかにふき取ってください。

重要 ●劣化した燃料やゴミなどの不純物が混入した燃料を使用しないでください。エンジン不調の原因となります。

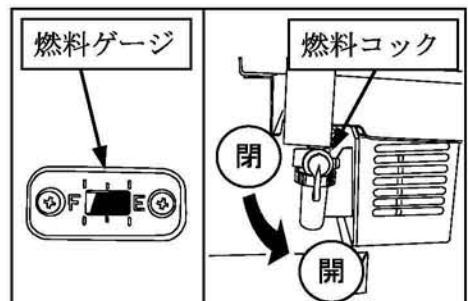
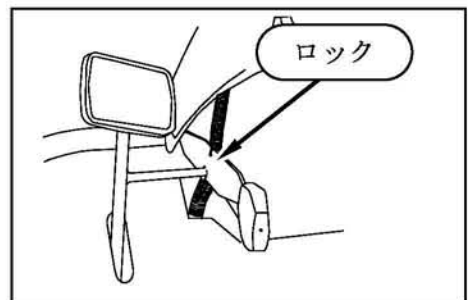
(1) ガソリンを給油してください。

 ●燃料は、燃料ゲージの「上限」以上入れないでください。燃料が「下限」に近づいたら、早めに給油するようにしてください。

(2) 給油後は、燃料キャップを確実に締めてください。

作業のしかた

運転操作の要領

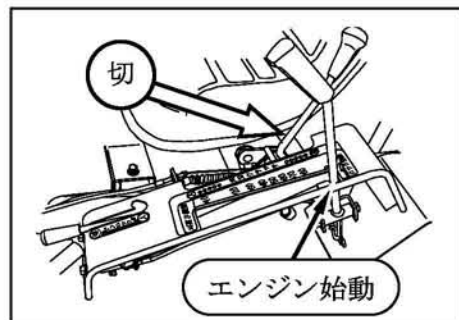
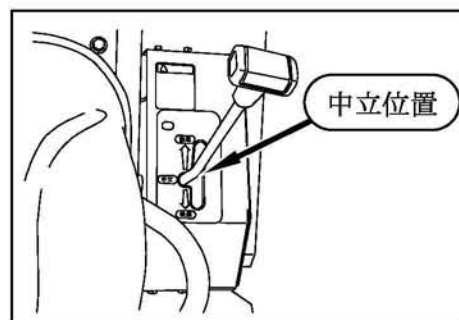
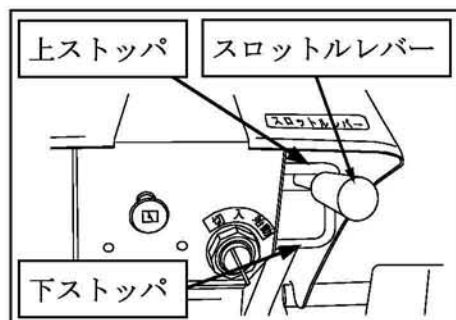
■エンジンの始動のしかた

⚠危険 **●閉め切った屋内では、エンジンを始動しないでください。排気ガスでガス中毒をおこします。**
●エンジン始動時は、座席に座り、各レバーの位置と周囲の安全を確認してください。特に、ＨＳＴレバー操作や、ＨＳＴペダルを踏み込んでのエンジン始動は、急発進等による事故の原因となります。駐車ブレーキを解除するときは、ＨＳＴペダルやＨＳＴレバーを「中立」位置にしてください。

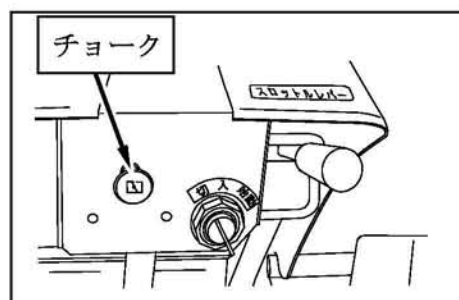
(1)　燃料の量を確認し、燃料コックを開けてください。

(2)　座席に座り、ブレーキペダルが「ロック」されていることを確認してください。

 ●ブレーキペダルが「ロック」位置にないと、安全スイッチが作動し、エンジンは始動できません。

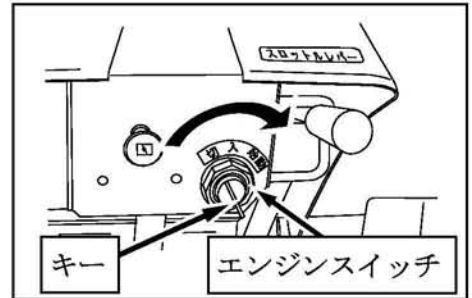
(3)　ブレーキペダルが「ロック」されていない場合は、ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、駐車ブレーキレバーを手前に引いて「ロック」してください。

(4)　刈刃クラッチレバーを「切」の位置にし、刈高さ調整レバーを「エンジン始動」の位置にしてください。

 ●刈高さ調整レバーが「エンジン始動」位置にないと、安全スイッチが作動し、エンジンは始動出来ません。

(5)　ＨＳＴペダルから足を離してください。
ＨＳＴレバーを「中立」位置にしてください。

(6)　スロットルレバーを「上ストッパ」と「下ストッパ」の中間位置にしてください。

(7)　チョーク操作を行なってください。

冷機時：いっぱいまで操作(引いて全閉)します。
暖機時：エンジンが始動しない場合に半分程度、操作します。

※エンジン始動後、チョークは必ず元の位置に戻してください。

(8)　エンジンスイッチにキーを差し込み、「始動」の位置まで回し、エンジンを始動させてください。

エンジンが始動したら直ちにエンジンスイッチから手を離してください。

重要 **●エンジンのセルモータは大電流を消費しますので５秒以上の連続使用は避けてください。**

●５秒以内で始動しない場合は、一旦キーを「切」の位置まで戻し、１０秒以上休止してから再度同じ操作を繰り返してください。

●エンジン運転中は、キーを「始動」位置にしないでください。セルモータの故障の原因となります。

(9)　エンジン始動後は、スロットルレバーを「上ストッパ」の位置へ戻し、５分程度、暖機運転をしてください。

重要 **●暖機運転を行なうことにより、エンジン各部へオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。**

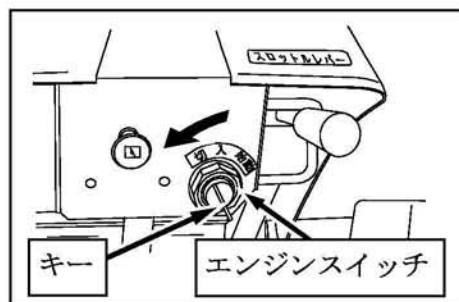
⚠警告 **●暖機運転中は、必ずブレーキペダルを「ロック」位置にしてください。自然に動きだし、思わぬ事故を招く恐れがあります。**

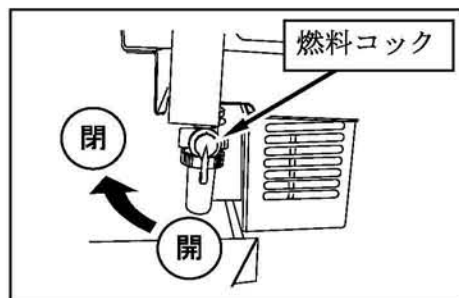
■エンジン停止のしかた

⚠警告 ●エンジンに接触すると火傷する恐れがあります。エンジン停止後、エンジン・マフラー等、高温部には、冷えるまでさわらないでください。

重要 ●エンジンの停止は、エンジンスイッチで行なってください。
刈高さ調整レバーが「エンジン始動」位置以外の場合、座席から立ちあがることで、安全スイッチが作動し、エンジンが停止しますが、この場合、そのまま放置しておくと、バッテリが消耗し、使用できなくなります。

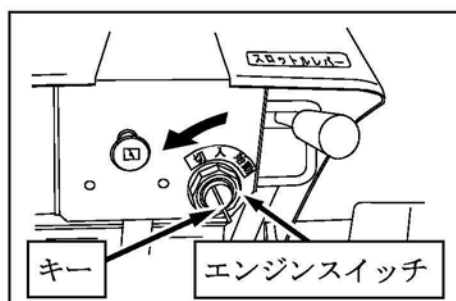
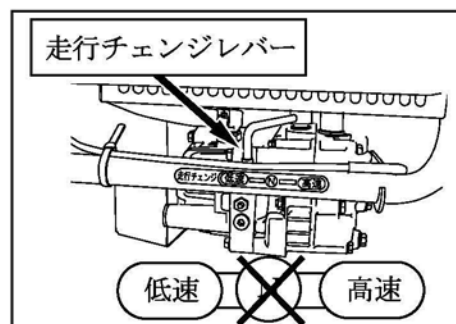
(1)　スロットルレバーを「上ストッパ」位置にしてください。

(2)　キーを「切」位置にしてエンジンを停止し、キーをエンジンスイッチから抜いてください。

(3)　燃料コックを「閉」位置にしてください。

(4)　万一、故障等により、エンジンスイッチを「切」位置にしてもエンジンが停止しない時は、燃料コックを「閉」位置にして、エンジンが停止するまで監視してください。

■変速のしかた

⚠危険

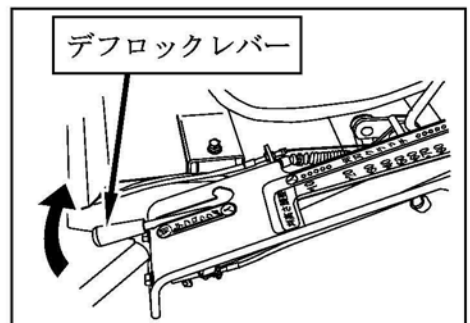
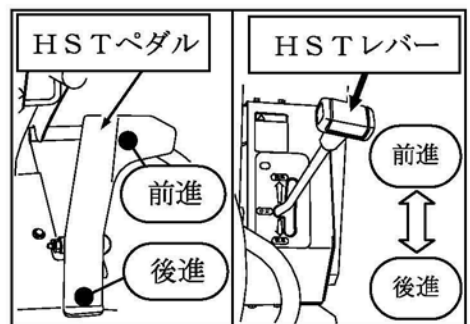
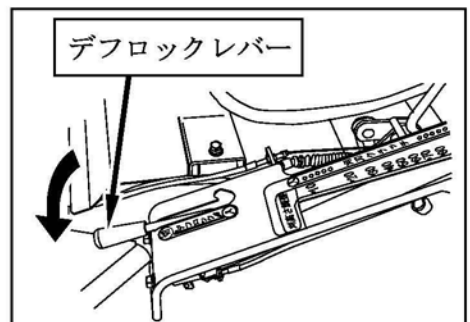
●変速操作はエンジンを停止させて行ってください。
●坂道でギヤ抜けすると、死傷する恐れがあります。走行変速操作は確実に行なってください。
●駐車ブレーキをかけていない場合、坂道で走行チェンジレバーを「N」の位置にすると自重で本機が動きます。安全のため走行変速操作は、平坦地で行なってください。
●坂道で走行チェンジレバーを「N」の位置にしての走行は、非常に危険です。絶対に行なわないでください。

(1)　エンジンを停止させてください。
平坦地であることを確認してください。

(2)　走行チェンジレバーを「高速」もしくは「低速」側に確実に入れてください。
変速が入りにくい場合は機体を前後させると入りやすくなります。

●「高速」での走行は移動時のみ使用してください。
●傾斜地や凸凹道では「低速」で走行してください。

■デフロックレバー操作のしかた

重要 **●通常走行時は、必ずデフロックレバーを「切」の位置にして走行してください。旋回半径が大きくなるばかりでなく、タイヤの片減り、本体各部にも高負荷がかかり故障の原因となります。**

ぬかるみや急な坂道などでスリップする場合は、デフロックレバーを操作して後輪の回転差をなくすことでスリップを回避します。

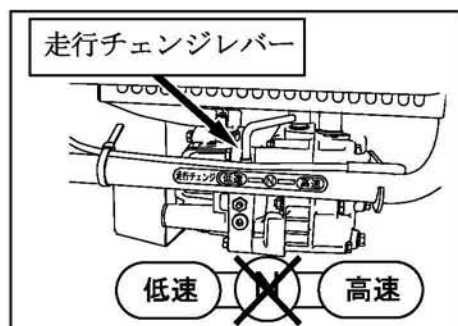
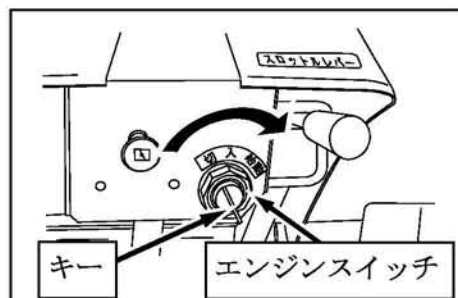
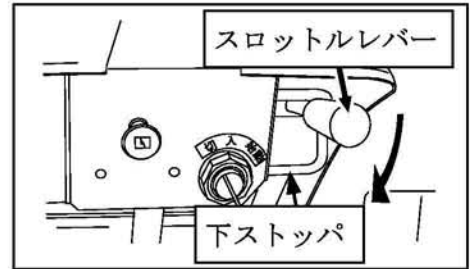
(1)　車体を停止させた状態で、デフロックレバーを「入」の位置にしてください。

(2)　ＨＳＴペダルを所定の方向へ少し踏込むまたは、ＨＳＴレバーを所定の方向に少し傾けて、車体をゆっくり走行させてください。

(3)　ぬかるみ等から脱出したら、車体を停止させ、デフロックレバーを「切」の位置に戻してください。

■走行運転のしかた

⚠危険

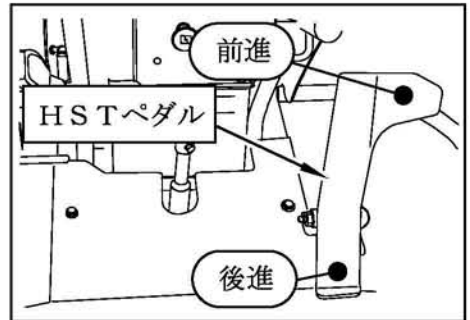
●転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
●障害物に衝突する恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。
●傾斜地でギヤ抜けすると衝突・転倒の恐れがあります。走行チェンジレバーを確実に「低速」または「高速」位置に入れてください。

⚠警告

●運転中、または回転中に回転部（ベルト・プーリ等）に触れるとケガをします。触れないでください。

(1)　走行変速をしてください。
（本書２７ページ参照。）

(2)　エンジンを始動させてください。
（本書２３～２５ページ参照。）

(3)　スロットルレバーを「下ストッパ」側へ倒して、エンジンの回転数を上げてください。

(4)　ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーの「ロック」を解除してください。

重要 **●ＨＳＴペダルを操作する場合は、ＨＳＴレバーを「中立」位置へ戻してください。**
●ＨＳＴレバーを操作する場合は、ＨＳＴペダルから足を放してください。

(5)　ＨＳＴペダルを踏み込むと本機が走行します。ペダルを踏み込む量によって無段階に速度を調節することができます。
●前進：ＨＳＴペダル前方を踏み込みます。
●後進：ＨＳＴペダル後方を踏み込みます。

(6)　ＨＳＴレバーを前後に操作すると本機が走行します。レバーの操作量によって無段階に速度を調節することができます。
●前進：ＨＳＴレバーを前方に倒します。
●後進：ＨＳＴレバーを後方に倒します。

⚠警告 **●ＨＳＴレバーとＨＳＴペダルを同時に操作しないでください。誤操作の原因となり、衝突・転倒する恐れがあります。**
●ＨＳＴペダルの前進・後進を踏みまちがえたり、ＨＳＴレバーの前進・後進を操作しまちがえると衝突・転倒する恐れがあります。踏みまちがえないよう注意してください。

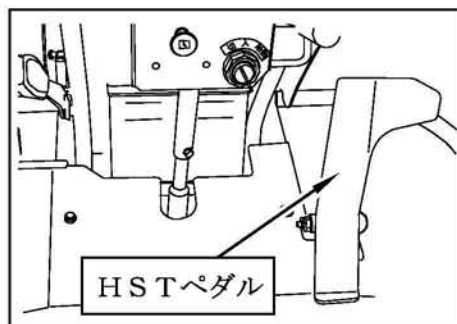
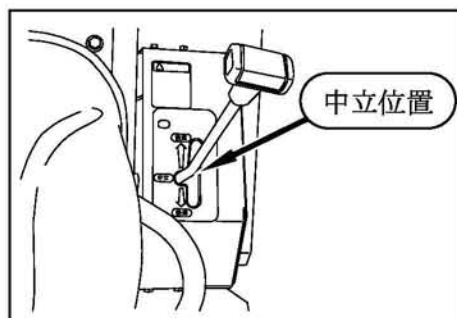
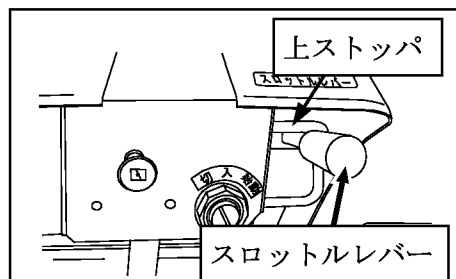
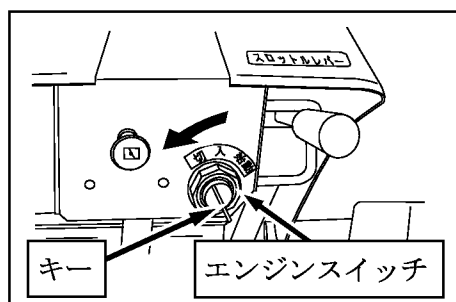
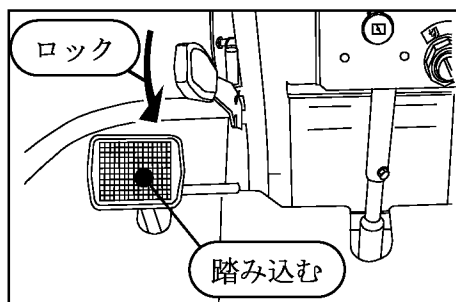
■走行停止（駐車）のしかた

⚠危険 ●ＨＳＴペダルやＨＳＴレバーで停止できない場合や、ブレーキペダルを踏んでも停止しない場合は、エンジンスイッチを「切」にして停止してください。

⚠注意 ●本機を駐車する場合は、平坦堅固な地面にブレーキペダルを「ロック」しエンジンを停止し、キーを抜いて駐車してください。やむを得ず、斜面に駐車する場合は、必ず歯止め（車止め）を行なってください。

重要 ●緊急の場合には、ブレーキペダルを踏み込むと、車体が急停止し、同時にＨＳＴレバーは「中立」位置まで戻ります。ギヤボックスに負担をかけないために通常はＨＳＴレバーを「中立」位置に戻して停止するようにしてください。

●緊急時以外はＨＳＴペダルから足を放して停止してください。
ブレーキペダルとＨＳＴペダルを同時に踏むと、ブレーキの摩耗が早くなります。

(1)　ＨＳＴペダルから足を離し、本機を停止させてください。

(2)　ＨＳＴレバーで走行している場合は、ＨＳＴレバーを「中立」位置に戻し、本機を停止させてください。

(3)　スロットルレバーを「上ストッパ」位置にしてエンジンの回転を落としてください。

(4)　キーを「切」位置にしてエンジンを停止し、キーをエンジンスイッチから抜いてください。

(5)　ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーを手前に引いてロックしてください。

■草刈作業のしかた

⚠危険

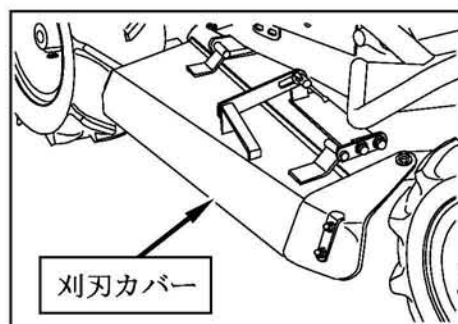
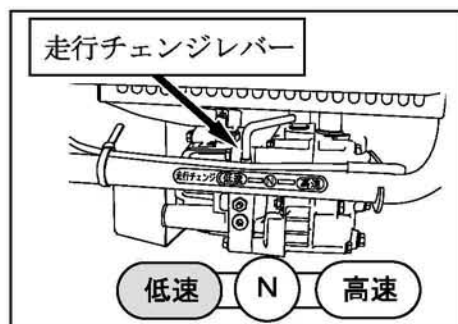
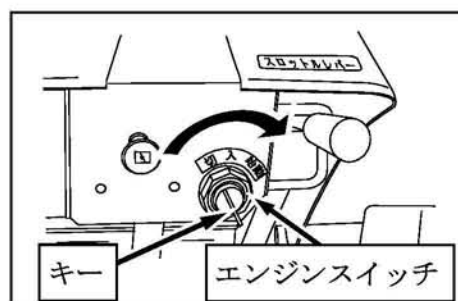
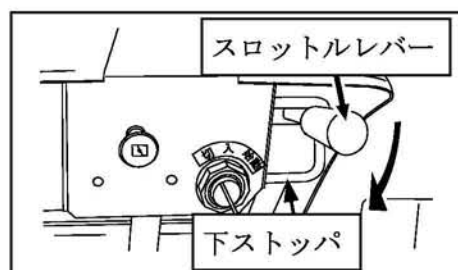
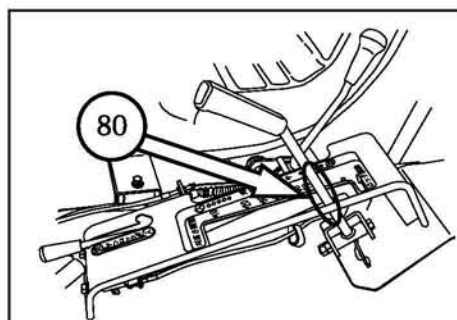
- ●エンジン運転中は、刈刃カバーに手や足を近づけたり踏んだりしないでください。高速回転の刈刃で大ケガをします。
- ●刈刃カバーを取外した状態や、開けた状態では絶対に作業をしないでください。高速回転の刈刃で大ケガをします。
- ●マフラーやエンジン周辺に草や燃えやすい物が堆積すると火災の原因となります。すみやかに取除いてください。

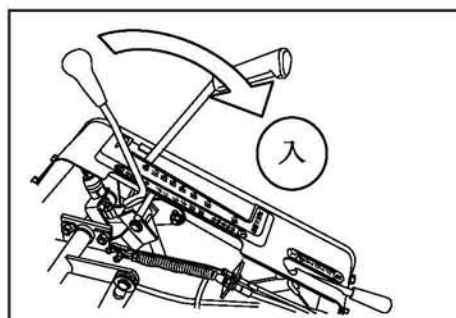
⚠警告

- ●刈草は本機右側の刈刃カバーから排出されますが、石・針金・空き缶等の異物は、刈取部全周より飛散し、周囲（人や動物、建物、自動車等）に被害を及ぼす恐れがあります。作業前に異物は取除き、安全に注意して作業を行なってください。
- ●草刈作業中は、作業範囲内に人（特に子供）、車両等が入り込まない様、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張る等して、半径１０ｍ以内にこれらのものを近づけないでください。
- ●１５°以上の傾斜地や、地面に凸凹の多い所、軟弱な路肩等、危険な場所での草刈作業は行なわないでください。無理な姿勢での運転による操作ミスや転倒の恐れがあります。
- ●刈刃にからみついた草や針金その他異物を取り除くときは、必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が止まっていることを確認した後にしてください。
- ●作業中、障害物に当った時は、すぐにエンジンを停止し、異常があれば直ちに修理をしてください。修理しないまま作業を再開すると思わぬ事故につながります。

⚠注意

- 作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子、またはヘルメット，保護メガネを必ず着用してください。
- 木の下の作業時は、木の枝等に接触し、ケガをする恐れがあります。低速走行で、十分注意してください。
- 初めて本機を使用するときは、石等の異物のない平坦地を選び、刈り跡が少し重複するようにゆっくりとまっすぐ刈ってください。
- 障害物の枕刈りのときは、木・柱、およびほかの障害物を常に車体の左側に位置させてください。右側に位置させると、刈刃の回転によりはじいたものが跳ね返ってくる可能性があり大変危険です。

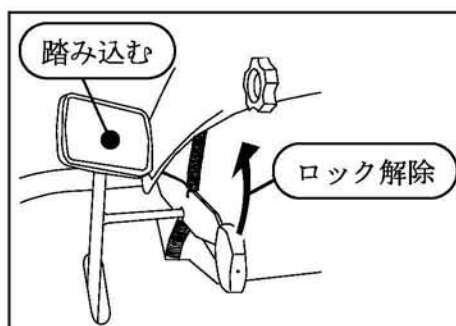
(1)　刈刃カバーが閉じていることを確認してください。

(2)　走行変速を「低速」側に入れてください。（本書２７ページ参照。）

(3)　エンジンを始動してください。
（本書２３～２５ページ参照。）

(4)　スロットルレバーを「下ストッパ」側にし、エンジン回転を上げてください。

(5)　刈高さ調整レバーを「８０」の位置に調整してください。

重要 ●刈高さ調整レバーを操作する際は、必ずレバーを座席側へ傾け「ロック」を解除してから上下操作をしてください。「ロック」を解除しないで無理に操作すると故障の原因となります。

(6)　刈刃クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置に倒すと、刈刃が回転を始めます。

重要 ●**刈高さ調整レバーが「エンジン始動」の位置では、刈刃クラッチレバーの操作は出来ません。無理に操作すると故障の原因となります。**

(7)　必要に応じて、刈高さ調整レバーを操作し、刈高さを変更してください。

重要 ●**刈刃の回転時と停止時では、刈刃の高さは異なります。（回転時の方が高くなります。）また、刈取作業する地面の状態で、刈高さは変化します。右表は、回転時の刈高さ目安です。**

刈高さ 調整レバー位置	刈高さ（目安）
８０	８０mm
７０	７０mm
６０	６０mm
５０	５０mm
４０	４０mm
３０	３０mm
２０	２０mm
１０	１０mm

(8)　駐車ブレーキを解除します。
ＨＳＴペダルまたはＨＳＴレバーを操作して作業を始めてください。

重要 ●**草刈作業は走行チェンジレバーを「低速」にして行なってください。「高速」での作業は、エンジン・トランスミッションに大きな負荷がかかり、故障の原因となります。**

(9)　エンジン負荷が大きい（草が多い）場合は速度を落として作業するか、刈高さを変えて２回刈をしてください。

(10)　作業終了は前述（作業開始手順）と逆の手順で行なってください。

⚠注意　**●作業終了後、本機より降車する場合は、平坦堅固な地面で、ブレーキペダルを「ロック」しエンジンを停止し、キーを抜いてください。**

①走行を停止してください。

↓

②刈刃クラッチレバーを「切」にしてください。

↓

③刈高さ調整レバーを「エンジン始動」位置にしてください。

↓

④スロットルレバーを「上ストッパ」の位置にしてください。

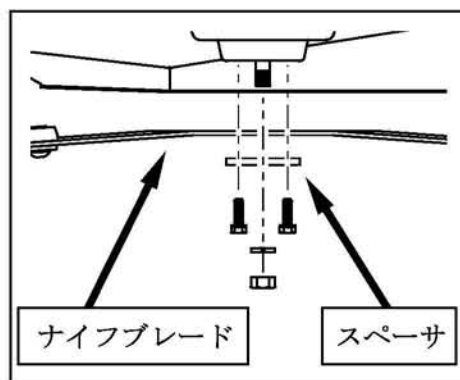
↓

⑤冷却運転後、エンジンを停止してください。

■刈高さについて

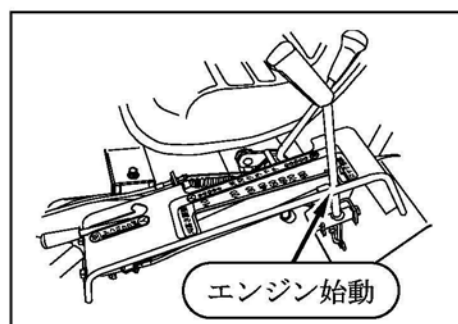
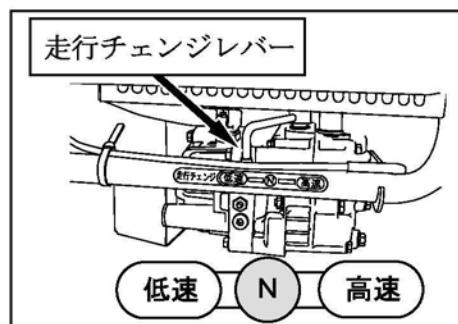
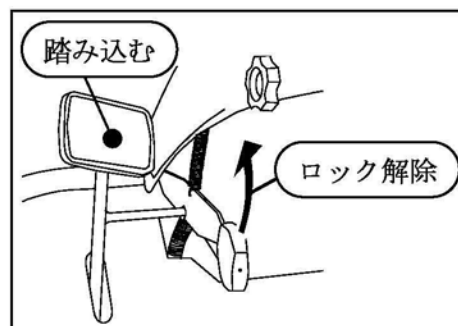
刈高さの設定は、標準状態で 10～80ｍｍですが、ナイフブレードとスペーサを組換えますと、20～90ｍｍに変更する事ができます。

(1)　ナイフブレードを取付けているM20 のﾅｯﾄとM12 のﾎﾞﾙﾄを取外します。

(2)　ナイフブレードがスペーサの上側になる様に組換え、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄを締付ます。
※締付トルクは下記の通りです。
M20 ナット：132.3～186.2N･m
M12 ボルト：124.5～147.0N･m

■緊急時の移動のしかた

⚠危険 ●傾斜地での手押し移動は行なわないでください。本機の自重で走行してしまうため、非常に危険です。

エンジントラブル等により、本機を通常操作により走行させることができなくなった場合には、下記の手順に従って本機を移動させてください。

(1)　刈高さ調整レバーを「エンジン始動」の位置にしてください。

(2)　走行チェンジレバーを「N」の位置にしてください。

(3)　ブレーキペダルの「ロック」を解除すると本機の手押し移動ができます。

点検・整備

●給油及び点検をするときは安全を確認して行なってください。
①車両を平坦な広い場所に置いてください。
②エンジンを止め、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
③ブレーキペダルを「ロック」してください。
※　安全を確認せずに点検整備をすると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

重要　●点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。本製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、〈定期点検整備箇所一覧表〉を参考に点検・整備を行なってください。

●年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

●〈定期点検整備箇所一覧表〉の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない点検内容については、「お買いあげ先」へ依頼してください。

〈定期点検整備箇所一覧表〉

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">項　目</th><th colspan="2" rowspan="2">点　検　内　容</th><th colspan="3">点検時期</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>始業</th><th>月例</th><th>年次</th></tr>
<tr><td rowspan="3">本体・原動機</td><td>始動性</td><td>・エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる</td><td>始動が容易で、異音がないこと。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">回転の状態</td><td>・アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。</td><td>正規の回転数であること。
回転が円滑に続くこと。</td><td></td><td></td><td>○</td><td>「お買いあげ先」へ点検を依頼してください。</td></tr>
<tr><td>・スロットルレバー操作時（アイドリング～全開）、スロットルレバーの引っかかり、およびエンジン停止・ノッキングの有無を調べる。</td><td>引っかかり・エンジン停止、またはノッキングがないこと。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

〈定期点検整備箇所一覧表〉

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
本体・原動機	排気の状態	・エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
		・排気管、マフラー等からガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
	エアクリーナ	・ケースの亀裂・変形、およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂・変形、またはふた・接続管に緩みがないこと。		○	○	
		・フォームエレメント・ペーパーエレメントの汚れ、および損傷の有無を調べる。	著しい汚れ、または損傷がないこと	○	○	○	清掃/交換 49ページ
	締付け	・シリンダヘッド・マニホールドの締付け部のボルト、およびナットの緩みの有無を調べる。 *これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
	弁隙間	・弁隙間を調べる。 *弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	「お買いあげ先」へ点検を依頼してください。
	圧縮圧力	・圧縮圧力を調べる。 *アイドリング時、および加速時の回転状態、ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	「お買いあげ先」へ点検を依頼してください。
	エンジンマウント	・エンジンベースの亀裂、および変形の有無を調べる。	亀裂、または変形がないこと。	○	○	○	
		・取付けボルト、およびナットの緩み・脱落の有無を調べる。	緩み、または脱落がないこと。	○	○	○	
原動機	潤滑装置	・油量、および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/交換 43,44ページ
		・ヘッドカバー・オイルパン・パイプ等からの油漏れの有無を調べ る。	油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置	・燃料タンク・ホース・パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
		・燃料ホースの損傷、および劣化の有無を調べる。	損傷、または劣化がないこと。	○	○	○	
		・燃料コックの汚れ、および劣化の有無を調べる。	著しい汚れ、または詰まりがないこと。		○	○	点検/清掃 50ページ
原動機 電機装置	点火プラグ	・電極の消耗状態・カーボン堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボン堆積がないこと。			○	点検/清掃 49ページ
	バッテリ	・電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検/補給 66ページ
		・端子部の緩み、および腐食の有無を調べる。	緩み、または著しい腐食がないこと。		○	○	
	配線	・接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
		・配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	

〈定期点検整備箇所一覧表〉

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
動力伝達装置	Vベルト	・外観の損傷、および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	
		・Vベルトの張りについて調べる	適正な張りであること。		○	○	点検 51,53 ページ
	トランスミッション	・前進、および後進状態にして走行し、作動状態・異音・異常発熱の有無を調べる。	異音および異常がなく作動が正常であること。	○	○	○	
		・ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること		○	○	点検/交換 46 ページ
		・ＨＳＴタンク内の油量を調べる。	油量が適正であること	○	○	○	47 ページ
		・油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと		○	○	点検/交換 46 ページ
		・ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。	○	○	○	
変速装置	走行チェンジレバー	・変速レバーを操作したとき、各変速位置に確実に入り、作動が適正であることを調べる	各変速位置に確実に入り、作動が適正であること。	○	○	○	
		・レバー取付け部にガタがないか調べる。	ガタがないこと。	○	○	○	
	ＨＳＴペダル・ＨＳＴレバー	・走行時、ＨＳＴペダル・レバーを操作した時、作動が適正であることを調べる。	作動が適正であること。	○	○	○	
		・ペダル・レバー取付け部に緩み、またはガタがないか調べる。	緩みまたはガタがないこと。	○	○	○	
走行装置	ハンドル(ステアリングホイール)	・走行時、ハンドルを左右に回して、ハンドルにガタが無く、確実に切れることを調べる。	ガタが無く、確実に切れること。	○	○	○	
	タイヤ・ホイール	・タイヤの空気圧およびラグの高さを調べる。	基準値内であること。		○	○	点検 51 ページ
		・タイヤ、ホイールの亀裂・損傷・偏摩耗の有無を調べる。	亀裂・損傷・偏摩耗がないこと。	○	○	○	
		・タイヤの溝に金属片・石・その他の異物のかみ込みがないことを調べる。	かみ込みがないこと。	○	○	○	
		・ホイールボルト・ハブナットの緩み・脱落の有無を調べる。	緩み・脱落のないこと。	○	○	○	
		・ホイールベアリング部のガタ・異音、および異常発熱の有無を調べる。	ガタ・異音・異常発熱がないこと。		○	○	
制動装置	ブレーキ	・ブレーキペダルの遊びが適切であることを調べる。	遊びが適切であること。	○	○	○	調整 56 ページ
	ロッド・リンク・ワイヤ類	・ロッド・リンク、およびワイヤ類の損傷、ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷、または緩みがないこと。	○	○	○	
車体	車体・カバー	・車体、およびカバーの亀裂・変形 ・ボルト・ナットの緩み・脱落の有無を調べる。	亀裂・変形、およびボルト・ナットの緩み・脱落のないこと。		○	○	

〈定期点検整備箇所一覧表〉

項目		点検内容		点検時期			備考
				始業	月例	年次	
安全スイッチ		・エンジン始動時、安全スイッチが正常に作動することを調べる。	正常に作動すること。	○	○	○	点検/調整 58～61ページ
		・エンジン運転中、安全スイッチが正常に作動することを調べる。	正常に作動すること。	○	○	○	
刈刃部	ナイフ（刈刃）	・刈刃の割れ、摩耗がないことを調べる。	割れ・異常摩耗が無いこと。	○	○	○	点検/交換 62～65ページ
		・刈刃取付ボルトの頭部の摩耗具合を確認する。	基準値以下のこと。	○	○	○	
		・刈刃取付ナットの緩みの有無を調べる。	緩みが無いこと。	○	○	○	
	ナイフブレード	・ナイフブレードの変形・亀裂の有無を調べる。	変形・亀裂が無いこと。	○	○	○	
		・ナイフブレード取付ボルト・ナットの緩みの有無を調べる。	緩みが無いこと。	○	○	○	

〈給油・給脂・注油・給水一覧表〉

項目	推奨品	補給(交換)時期		容量	参照ページ
燃料	自動車用 無鉛レギュラーガソリン	随時		６．４リットル	22ページ
エンジンオイル	ガソリン エンジンオイル ＳＡＥ　１０Ｗ－３０ ＡＰＩ　ＳＦ級以上	補給	毎日点検 ※不足時に補給	１．５リットル フィルタ交換時 １．６リットル	43～45ページ
		交換	初回　　：８時間		
			２回目～：５０時間毎		
トランスミッションオイル	ギヤーオイル ＳＡＥ　８０Ｗ－９０	交換	初回　　：５０時間	１．７リットル	46ページ
			２回目～：５００時間毎		
ＨＳＴオイル	ディーゼル エンジンオイル ＳＡＥ　１０Ｗ－３０ ＡＰＩ　ＣＤ級以上	補給	毎日点検 ※不足時に補給	０．６リットル	47ページ
		交換	初回　　：５０時間		
			２回目～：２００時間毎		
各給脂箇所	リチューム系 一般グリース	６ヵ月毎 ※必要に応じ給脂		適量	48ページ
バッテリ液	蒸留水	毎月点検 ※不足時に補給		適量	66ページ

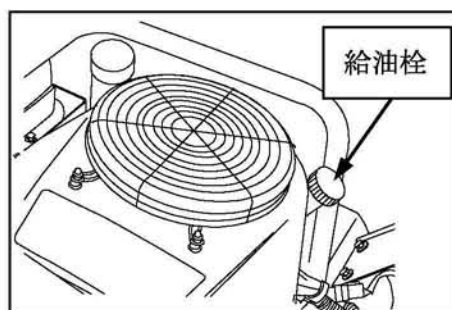
※オイル交換時の廃油については地方自治体の指示にしたがい適切な処理をしてください。

■エンジンオイルの点検・交換・給油

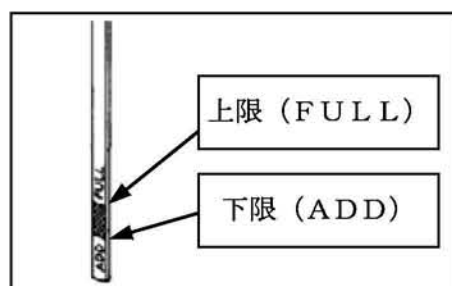
⚠警告 ●エンジンカバーなどの高温部が完全に冷えてから行ってください。怠ると火傷などの原因になります。

●点検のしかた

(1)　エンジンの給油栓を外し、給油栓についているオイルレベルゲージをきれいな布でふいてください。

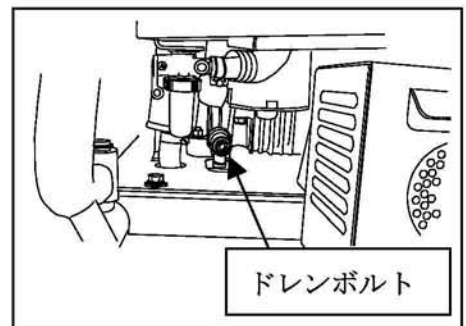
(2)　給油栓を差し込み、再度引抜いてください。

重要 **●給油栓はねじ込まずにオイル量を点検します。**

(3)　エンジンオイル量を点検し、不足している場合はオイルレベルゲージの「ＦＵＬＬ」位置までゆっくりと補給してください。

(4)　エンジンオイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合はエンジンオイルを交換してください。

●交換のしかた

 ●エンジンオイル交換は、初回は８時間目、それ以降は、５０時間運転毎、もしくは１年毎のいずれか早い時期を目安に交換してください。

(1)　オイルを受け取る適当な容器を用意し、本機左後部のドレンボルトを緩め、オイルを排出してください。

(2)　オイルを抜き終わったら、元の通りにドレンボルトをしっかりと締付けてください。

(3)　給油栓を取外し、指定のオイルをオイルレベルゲージの「ＦＵＬＬ」位置までゆっくりと給油してください。

(4)　エンジンオイル給油後、オイルがにじみでないように、給油栓はしっかりと締付けてください。

■エンジンオイルフィルタの交換

重要 **●オイルフィルタは、１００時間毎、または１年毎に交換してください。**
●オイルフィルタの取付は、工具を使わず手で行なってください。

(1)　エンジンオイルを抜き取ってください。
（本書４４ページ参照。）

(2)　オイルフィルタ接続部の下にプラスチック製の容器を置いてください。

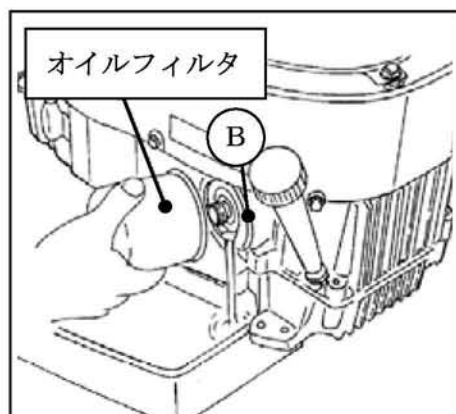
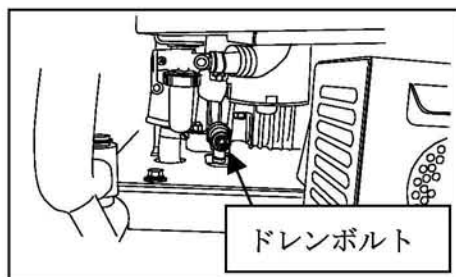
(3)　オイルフィルタを反時計方向に回し、取外してください。
※市販のフィルタレンチを使用して、取外してください。

(4)　新しいオイルフィルタのシール部（ゴムパッキン部）にきれいなエンジンオイルを薄く塗ってください。

(5)　新しいオイルフィルタをシール部（ゴムパッキン）が取付け面 Ⓑ に接触するまで、時計方向に回し、さらに３／４回転だけ手で締付けてください。

(6)　給油栓を取外し、指定のオイルをオイルレベルゲージの「ＦＵＬＬ」位置までゆっくりと給油し、給油栓をしっかりと締付けてください。
（本書４４ページ参照。）

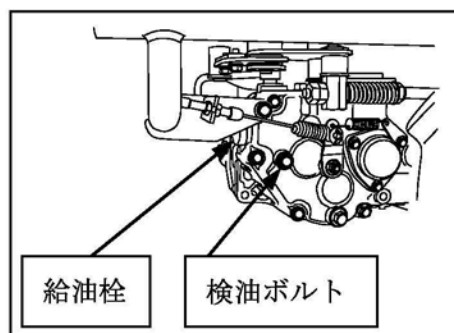
(7)　エンジンを低速で約３分間運転した後、オイルフィルタ取付け面にオイルのにじみがないか確認してください。

(8)　エンジンを停止させ、しばらく放置後（約１０分）、オイル量を再度点検し、必要であれば補給してください。

■ミッションオイルの点検・交換・給油

重要 ●ミッションオイルの交換は、初回は５０時間目、それ以降は５００時間毎を目安に交換してください。

●点検のしかた

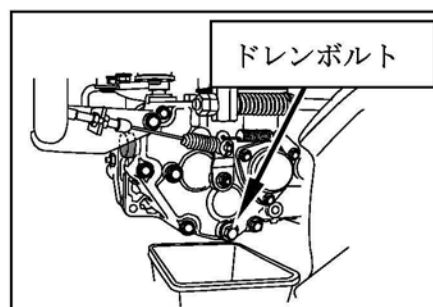
(1)　ミッションケース左後方の検油ボルトを外して、検油穴（検油ボルトの位置）までオイルが入っているかどうか確認してください。

(2)　オイルが不足している場合は給油栓を外し、検油穴（検油ボルトの位置）まで指定のオイルを補給してください。

(3)　補給後は、検油ボルトをしっかりと締付け、給油栓を取付けてください。

●交換のしかた

(1)　オイルを受け取る適当な容器を用意してください。

(2)　ドレンボルトを取外し、オイルを排出してください。

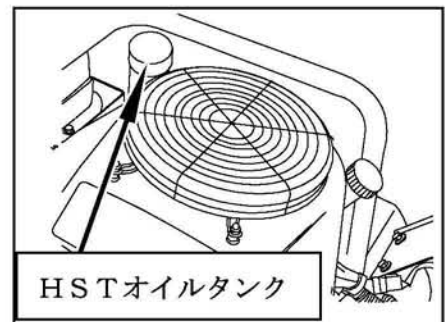
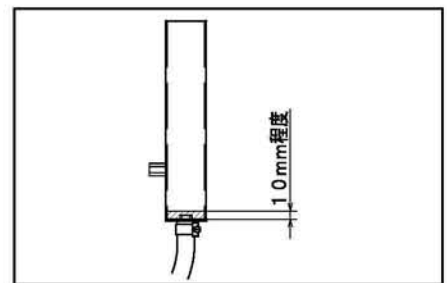
(3)　ドレンボルトをしっかりと締付けてください。

(4)　検油ボルト、および給油栓を取外し、検油穴（検油ボルトの位置）まで指定のオイルを給油してください。

(5)　給油後は、検油ボルトをしっかりと締付け、給油栓を取付けてください。

■ＨＳＴオイルの点検・交換・補給

●ＨＳＴオイルの交換は、初回は５０時間目それ以降は２００時間毎を目安に交換してください。
●ＨＳＴオイルを入れすぎるとオイルがキャップよりあふれることがありますので入れすぎないように注意してください。
●ＨＳＴオイルは、指定のオイル以外を入れないでください。異種オイルを混合させると、故障の原因となります。

●点検のしかた

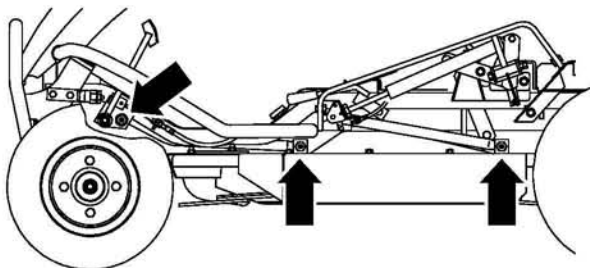
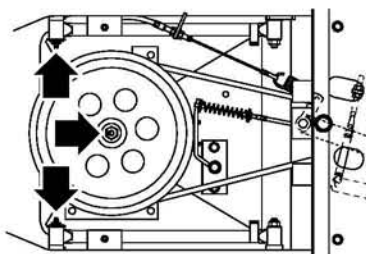
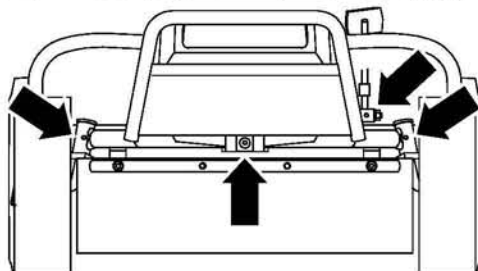
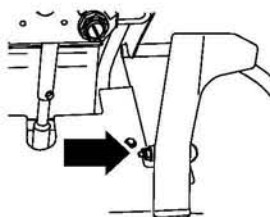
(1)　ＨＳＴオイルタンクのキャップを取外してください。

(2)　オイル量を点検し、ＨＳＴオイルタンク底面から１０ｍｍ程度オイルが溜まっていることを確認してください。

(3)　不足している場合は、指定のオイルを、ＨＳＴオイルタンク底面から１０ｍｍ程度までオイルが溜まるように補給してください。

●交換のしかた

ＨＳＴオイルを交換する場合には、「お買いあげ先」までご相談ください。
交換には特殊な工具、および整備技術が必要です。

■各部へのグリスアップ

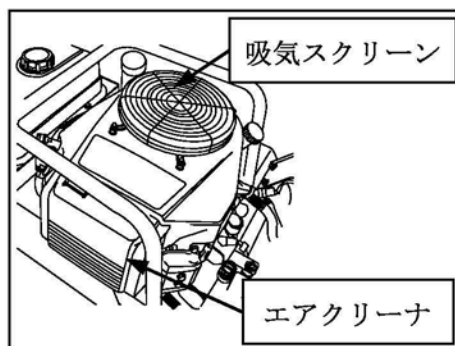
●グリスアップがおろそかになると、焼き付きや、錆び付きの原因となり、回転や作動が円滑に行なわれなくなりますので、定期的にグリスアップを行なってください。

（1）刈刃上下アーム支点部(左右合計６箇所)

（2）刈刃上下アーム支点部、刈刃主軸(合計３箇所)

（3）キングピン、センターピン、ブレーキペダル支点(合計４箇所)

（4）ＨＳＴペダル支点(１箇所)

各部の点検・整備・調整のしかた

■エアクリーナ・吸気スクリーンの清掃のしかた

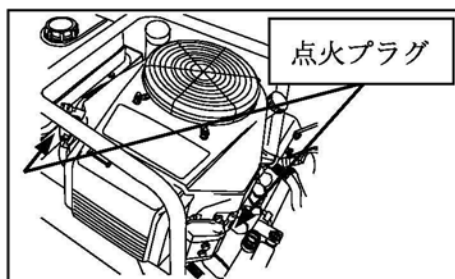
⚠危険 ●エアクリーナ・吸気スクリーンが草屑等で目詰まりを起こしたまま、作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇して燃料への引火爆発・火災の原因となり大変危険です。必ず定期的な清掃を励行してください。

重要 ●エアクリーナを外したままエンジンを始動させないでください。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調や、異常摩耗の原因となります。

付属の「エンジン取扱説明書」の指示にしたがって、エアクリーナ・吸気スクリーンの点検・清掃・交換を行なってください。

■点火プラグの点検・調整のしかた

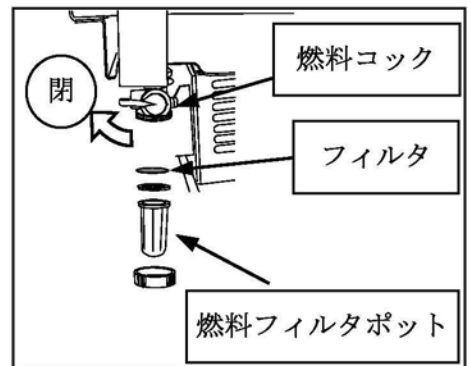
重要 ●搭載エンジンはＶ型２気筒です。点火プラグの点検・交換は、２本同時に行ない、片側だけの清掃、および交換はしないでください。エンジン不調の原因となります。

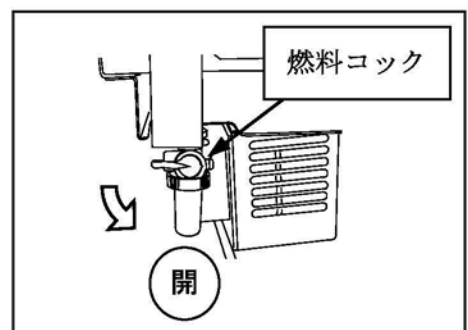
(1)　タンクガードを開けてください。
（本書１９ページ参照。）

(2)　付属の「エンジン取扱説明書」の指示にしたがって点火プラグの点検・調整を行なってください。

■燃料コックの清掃のしかた

⚠危険 ●くわえたばこや裸火照明で作業を行なわないでください。
引火爆発・火災の原因となります。

重要 ●５０時間使用毎に燃料コック内部を清掃してください。
●作業は燃料コックを「閉」にしてから行なってください。

(1)　燃料コックを「閉」にし、燃料フィルタポットを外し、燃料フィルタポット内部、およびフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エア吹きして乾燥させてください。

(2)　燃料漏れがないよう元の通りに確実に組み付けてください。

(3)　燃料コックを「開」にしてください。

■燃料ホース・ＨＳＴオイルタンク接続ホースの点検

●燃料ホースなどのゴム製品は、使用していなくても、時間とともに徐々に劣化していきます。ホースバンドと共に、２年毎、または劣化により傷んだ時に、新品と交換してください。

■タイヤの点検・調整

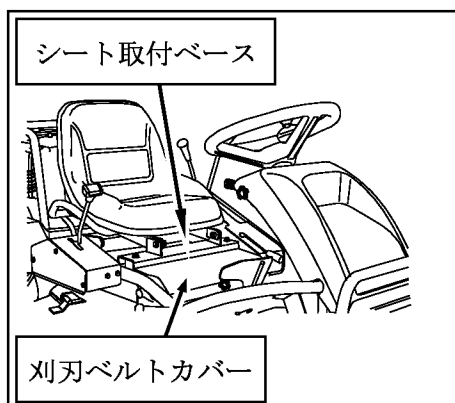
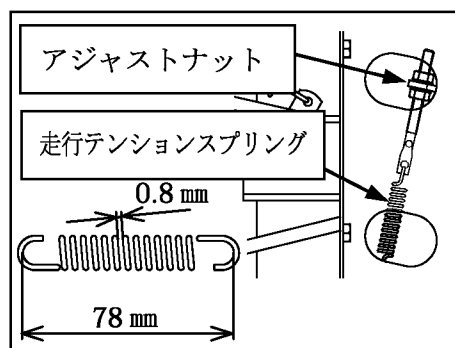
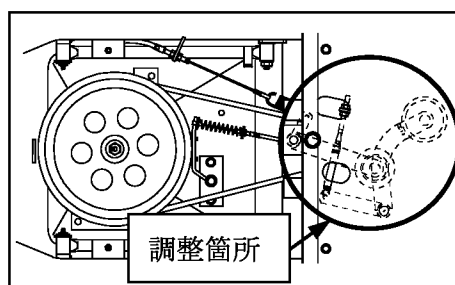
(1)　前後輪のタイヤの空気圧を点検し、右表を参照して、適正値でない場合は調整してください。

(2)　前後輪のタイヤのラグの高さを点検し、５ｍｍ未満の場合は交換してください。

	タイヤサイズ	空気圧
前輪	３．５０－７	１２０kPa １．２kgf/cm^2
後輪	１６×７．００―８	１４０kPa １．４kgf/cm^2

■走行Ｖベルトの張り調整

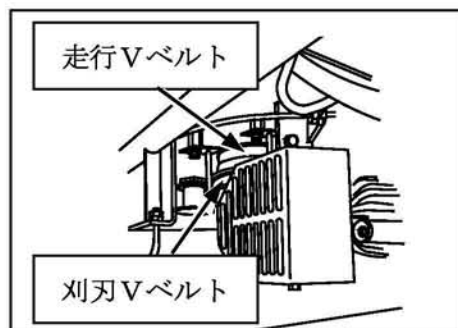
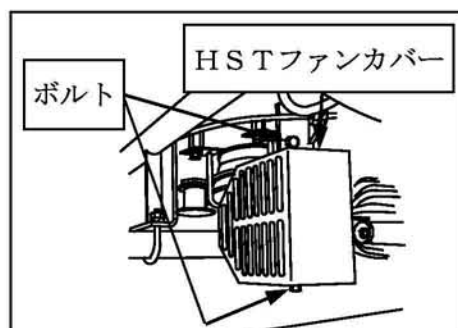
走行中にＶベルトがスリップする場合は、下記要領にしたがって調整してください。

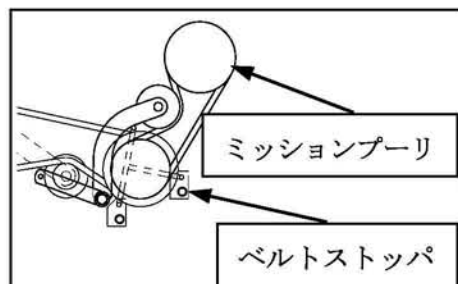
(1)　シート取付ベースと、刈刃ベルトカバーを外してください。

(2)　ブレーキペダルを踏まない状態で、走行テンションスプリングのフック内側寸法が７８ｍｍ（中央部すき間０.８ｍｍ）になるようにアジャストナットを調整してください。

■走行Ｖベルトの交換

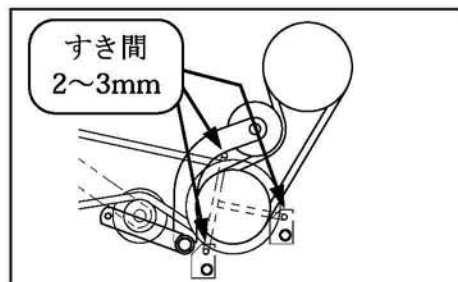
走行Ｖベルトに損傷がないか確認します。ヒビ・摩耗等の損傷があれば、下記要領にしたがって新品と交換してください。

(1)　機体後方より、走行Ｖベルトの損傷具合を確認してください。

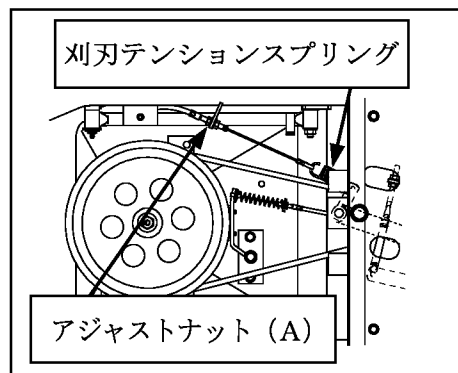
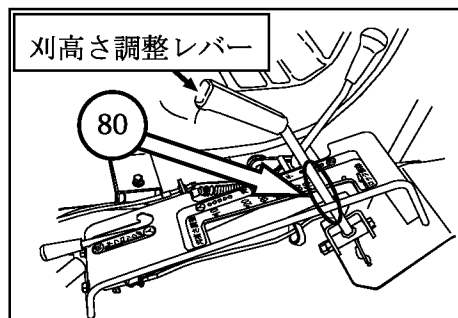
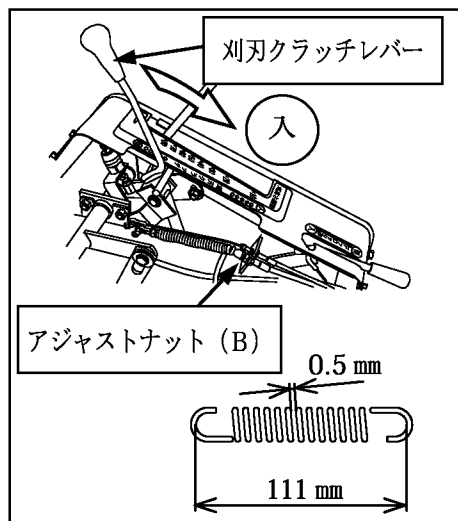
(2)　損傷がある場合は、ＨＳＴファンカバーを外し、エンジンプーリ側のベルトストッパを外してください。

(3)　シート取付ベースと、刈刃ベルトカバーを外してください。（本書５１ページ参照。）

(4)　アジャストナットを緩めて、走行テンションを張っている走行テンションスプリングを緩めてください。
（本書５１ページ参照。）

(5)　刈刃Ｖベルトを外し、次に走行Ｖベルトはミッションプーリ溝から上方に外して走行Ｖベルトを取外してください。

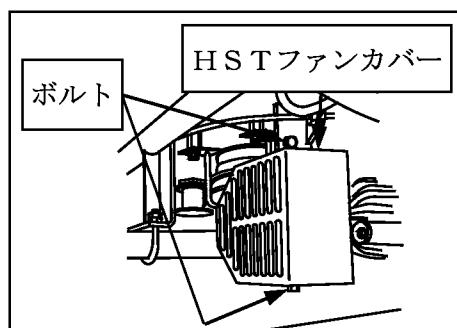
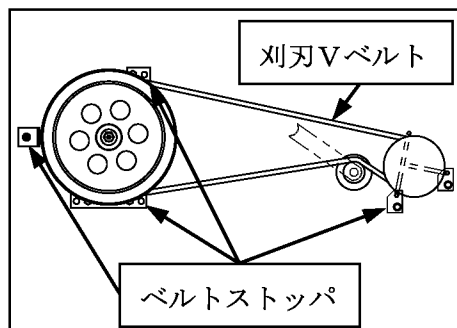
(6)　新しい走行Ｖベルトを取付て、次に刈刃Ｖベルトを取付けてください。

(7)　走行Ｖベルトの張り調整をしてください。
（本書５１ページ参照。）

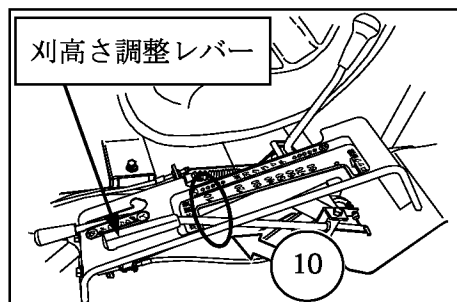
(8)　エンジンプーリ側のベルトストッパとエンジンプーリのすき間が２～３ｍｍになる様にベルトストッパの位置を調整してください。

■刈刃Ｖベルトの張り調整

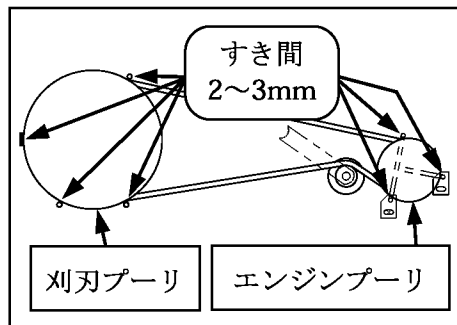
草刈作業中にＶベルトがスリップする場合には、下記要領にしたがって調整してください。

(1)　シート取付ベースと、刈刃ベルトカバーを外してください。(本書５１ページ参照。)

(2)　刈高さ調整レバーを「８０」の位置に合せてください。

(3)　刈刃クラッチレバーを「入」にしたとき、刈刃テンションスプリングのフック内側寸法が１１１ｍｍ（中央部すき間が０．５ｍｍ）になるようにアジャストナット（A）または（B）を調整してください。

■刈刃Ｖベルトの交換

刈刃Ｖベルトに損傷がないか確認します。ヒビ・摩耗等の損傷があれば、下記要領にしたがって新品と交換してください。

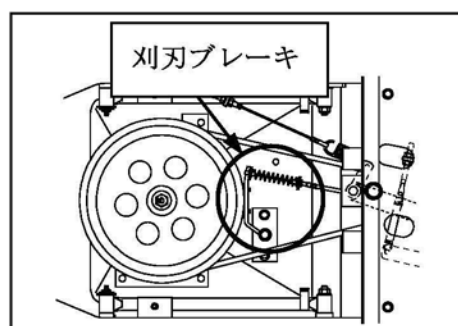
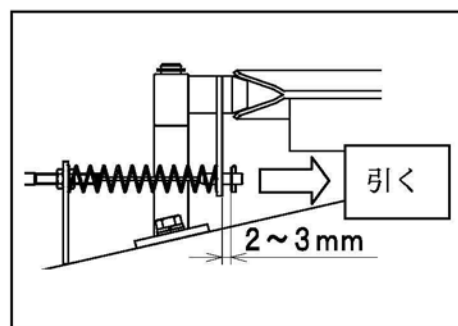
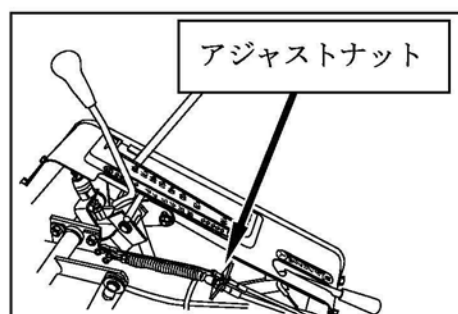
(1)　シート取付ベースと、刈刃ベルトカバーを外してください。(本書５１ページ参照。)

(2)　刈刃Ｖベルトの損傷具合を確認してください。

(3)　損傷がある場合は、ＨＳＴファンカバーを外し、各ベルトストッパを外して、新しいＶベルトと交換してください。

(4)　刈刃Ｖベルトの張り調整をしてください。（本書５３ ページ参照。）

(5)　刈高さ調整レバーを「１０」の位置に合せてください。

(6)　刈刃クラッチレバーを「入」にし、各ベルトストッパとプーリ、またはＶベルトのすき間が２～３mm になる様にベルトストッパの位置を調整してください。

■刈刃ブレーキ調整

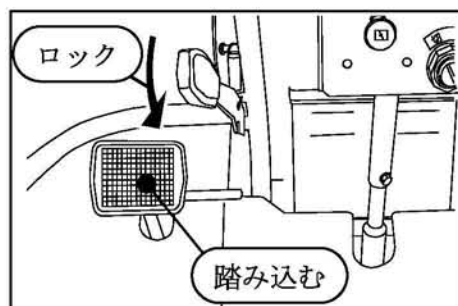
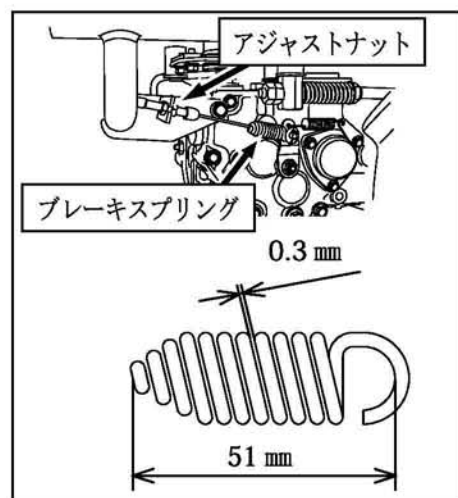
⚠警告　●刈刃ブレーキが効かないと、刈刃クラッチレバーを「切」位置にしても、刈刃の回転が止まらない場合があります。刈刃ブレーキ調整が悪いと思わぬ事故につながります。

刈刃は、刈刃クラッチレバーを「切」位置にすると５秒以内で停止します。停止しない場合は、下記要領にしたがって調整してください。

(1)　シート取付ベースと、刈刃ベルトカバーを外してください。（本書５１ページ参照。）

(2)　刈刃クラッチレバーを「切」にし、ワイヤの先端を軽く引張った時に２～３ｍｍのすき間ができるようにアジャストナットを調整してください。

重要　●調整できない場合は、ブレーキシューが交換時期に達しています。「お買いあげ先」にお早めに交換を依頼してください。

■ブレーキ調整

▲危険 ●ブレーキが効かなくなる恐れがあります。作業前には必ずブレーキペダルの点検を行なってください。

ブレーキペダルの遊びが大きくなった場合には、下記要領にしたがって調整してください。

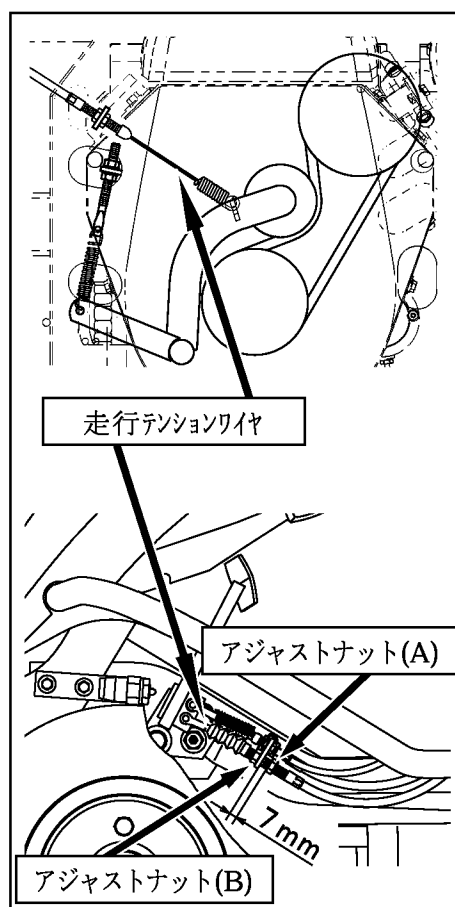
(1) 駐車ブレーキをロックしてください。

(2) 車体後方下部のブレーキスプリングの寸法が５１ｍｍ（中央部すき間が０.３ｍｍ）になるようにアジャストナットを調整してください。

■走行クラッチ調整

ブレーキをかけたとき、ＨＳＴ走行ベルトテンションクラッチが切れ、確実に機体を停止させます。

駐車ブレーキ時にＨＳＴ走行ベルトクラッチが切れない場合（駐車ブレーキ時にＨＳＴペダル・ＨＳＴレバー操作で機体が動く場合）は、下記要領にしたがって走行テンションワイヤを調整してください。

(1)　ブレーキをかけない状態で、アジャストナット(A)，(B)をゆるめて後方へ引張り、インナーケーブルのあそびをなくします。

(2)　(1)の状態でアジャストナット(A)をゆるめて、ステーとアジャストナット(A)のすきまを７ｍｍにします。

(3)　アジャストナット(B)を締めていき、アジャストナット(A)，(B)をロックします。

■ＨＳＴペダル・ＨＳＴレバー調整

注意

●平坦地で、ＨＳＴペダルおよび、ＨＳＴレバーが中立位置でも、車体が前、または後ろに微動する場合は、ＨＳＴペダル、およびＨＳＴレバーの「中立」位置の調整が必要です。思わぬ事故を引き起こす恐れがありますので、直ちに「お買いあげ先」に調整を依頼してください。

分解組立をしたとき以外は、ＨＳＴペダルおよび、ＨＳＴレバーの調整の必要はありません。

平坦地では、ＨＳＴペダルおよび、ＨＳＴレバーが中立位置にあれば、車体は停止しますが、斜面では、下り方向に微動します。

■安全スイッチの点検と調整

注意

●安全スイッチは、誤操作した時に、「エンジンが始動しない」または「エンジンが自動停止」するためのスイッチです。
始業前には、必ず点検を行なってください。

●安全スイッチの点検時は、誤動作によりケガをする恐れがあります。必ず座席に座って点検を行なってください。

警告

●安全スイッチを取り外したり、配線の改造をしないでください。安全スイッチが作動せず思わぬ事故を招く恐れがあります。

●**点検のしかた**

１．ブレーキペダルの安全スイッチの点検

(1)　刈高さ調整レバーを「エンジン始動」位置にしてください。

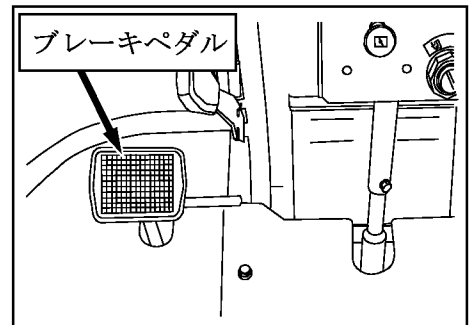
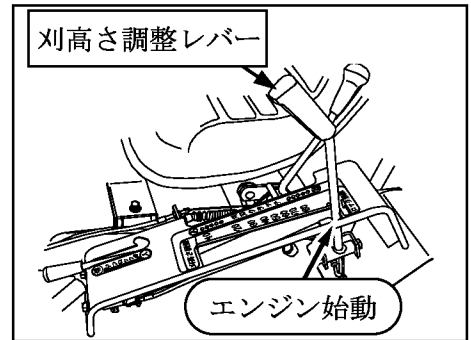
(2)　ブレーキペダルが「ロック」解除位置でエンジンスイッチを「始動」にしてください。

○正常な場合、エンジンは始動しません。

×始動した場合は調整を行なってください。

(3)　ブレーキペダルが「ロック」位置でエンジンスイッチを「始動」にしてください。

○正常な場合、エンジンが始動します。

×始動しない場合は調整を行なってください。

２．刈刃部の安全スイッチの点検

(1)　ブレーキペダルを「ロック」位置にしてください。

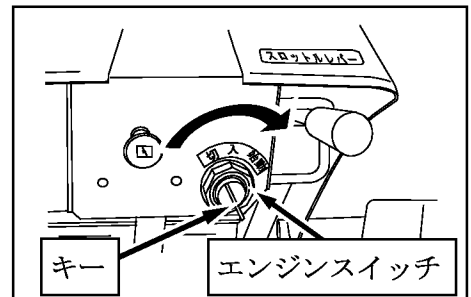
(2)　刈高さ調整レバーが「エンジン始動」位置以外でエンジンスイッチを「始動」にしてください。

○正常な場合、エンジンは始動しません。

×始動した場合は調整を行なってください。

(3)　刈高さ調整レバーが「エンジン始動」位置でエンジンスイッチを「始動」にしてください。

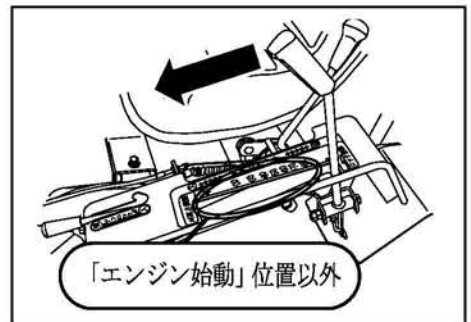
○正常な場合、エンジンが始動します。

×始動しない場合は調整を行なってください。

３．座席の安全スイッチの点検

⚠注意 ●安全のため、ブレーキペダルは「ロック」位置、刈刃クラッチレバーは「切」位置にしておいてください。

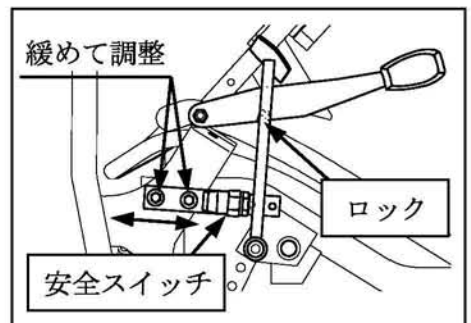
(1)　エンジンを始動してください。
　（本書２３～２５ページ参照。）

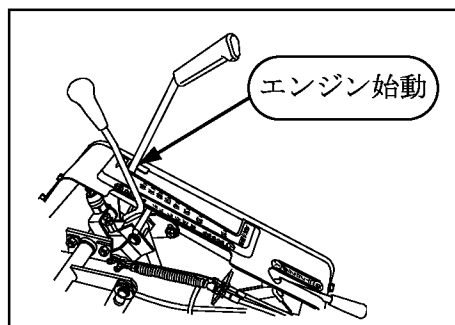
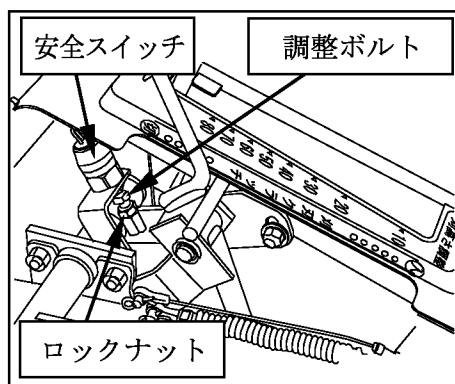
(2)　刈高さ調整レバーを「エンジン始動」位置以外に合せてください。

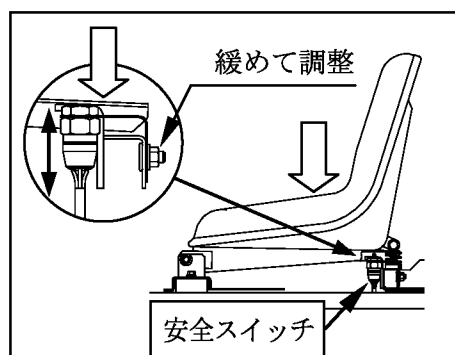
(3)　シート（座席）より腰を浮かせてください。
○正常な場合、すぐにエンジン回転が下がり、エンジンが停止します。
×停止しない場合は調整してください。

●調整のしかた

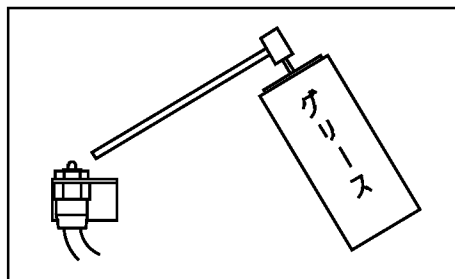
１．ブレーキペダルの安全スイッチの調整

(1)　ブレーキペダルを「ロック」位置にしてください。

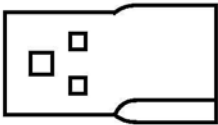
(2)　ボルトを緩め、スイッチ先端がナット面まで押し込まれるように調整してください。
　調整後、安全スイッチが動かないようにボルトを締めて固定してください。

2．刈刃の安全スイッチの調整

(1)　刈高さ調整レバーを「エンジン始動」位置にしてください。

(2)　ロックナットを緩め、調整ボルトをスイッチ先端がナット面まで押し込まれるように調整してください。
　調整後、調整ボルトが回らないようにロックナットを締めて固定してください。

3．座席の安全スイッチの調整

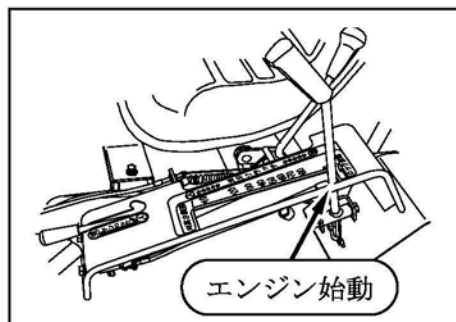
　ナットを緩め、座席を手で押し下げた状態で、スイッチ先端がナット面まで押し込まれるように調整してください。
　調整後、安全スイッチが動かないようにナットを締めて固定してください。

4．各安全スイッチの動作点検

　安全スイッチ先端の動作を確認し、動きが鈍い場合は、市販のスプレーグリースをスイッチ動作部に薄く塗ってください。改善されない場合は、安全スイッチを交換してください。

■刈刃の点検・交換

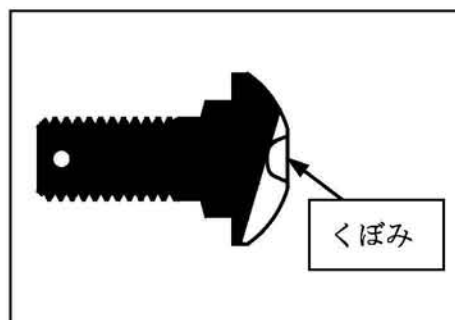
⚠警告

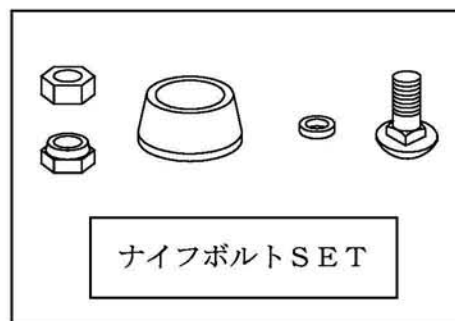
- ●刈刃の点検・交換作業を行なう場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。事故発生の原因となります。
- ●刈刃を取扱うときは、ケガを避けるため、丈夫な皮手袋をつけて行なってください。
- ●刈刃を交換する際には、必ず、メーカ純正品とご指定ください。メーカ純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。
- ●刈刃を研磨しての使用はしないでください。刈刃の割れが発生する恐れがあり、大変危険です。

●点検のしかた

(1)　キーを「切」位置にしてエンジンを停止し、キーをエンジンスイッチから抜いてください。

(2)　刈高さ調整レバーを「エンジン始動」の位置にしてください。

(3)　刈刃の回転が停止していることを確認し、刈刃カバーを開けてください。

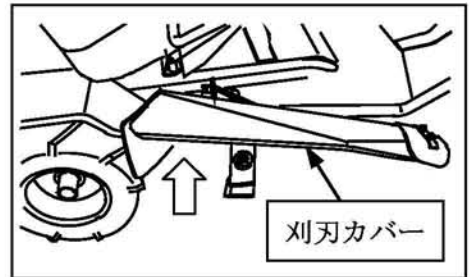
(4)　刈刃の割れ、摩耗状態を点検してください。

(5)　刈刃を止めている刈刃取付ボルトの頭のくぼみがなくなっている場合はすぐに交換してください。　（刈刃の交換のしかた：本書６４，６５ページ参照。）

⚠危険　●刈刃取付ボルトが摩耗していると、刈刃の飛散等による重大事故が発生する恐れがあります。

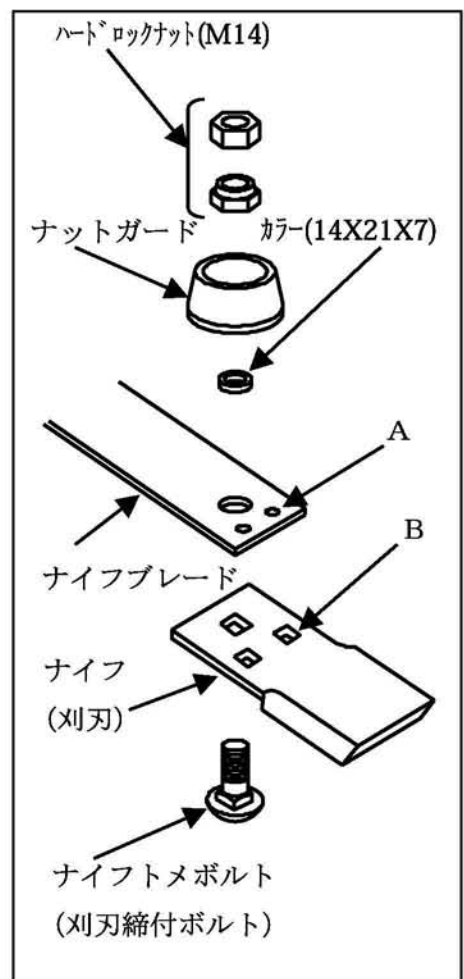
(6)　刈刃取付ボルトを交換する際は、ナイフボルトＳＥＴで交換してください。
（主な消耗部品：本書８１ページ参照。）

⚠危険　●古いナットを使用すると、砂等が締付部にはさまり、ナットに緩みが生じ、刈刃が飛散し、周囲の人や物に当り、重大な事故を招く恐れがあります。

●交換のしかた

重要 **●刈刃の交換は、必ず２個同時に行なってください。新旧の刈刃を混同して使用すると異常振動が発生し、故障の原因となります。**

(1)　本機右側の刈刃カバーを開けてください。

(2)　ナイフブレードとナイフのＡ・Ｂの穴にドライバー等、高強度の棒状のものを通し、ナイフが回らないように固定してください。

(3)　対辺２２ｍｍのソケットレンチを使用し、ハードロックナット（Ｍ１４）の上側のナットを取外し、次に下側のナットを外してください。

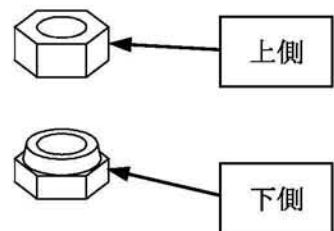
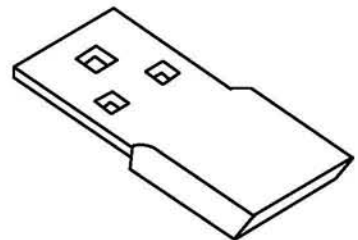
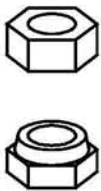
(4)　ナイフトメボルトを抜き、ナイフを取り外してください。

(5)　新しいナイフＳＥＴを用意してください。
（主な消耗部品：本書８１ページ参照。）

(6)　ナイフトメボルトを差込み、刈刃を取付けてください。

(7)　ナイフブレードとナイフのＡ・Ｂの穴にドライバー等、高強度の棒状のものを通し、ナイフが回らないように固定してください。

(8)　対辺２２ｍｍのソケットレンチを使用し、ハードロックナット（Ｍ１４）の下側のナットを右図締付けトルクで固定してください。

重要 **●ナットの向きに注意してください。**

(9)　対辺２２ｍｍのソケットレンチを使用し、ハードロックナット（Ｍ１４）の上側のナットを右図締付けトルクで固定してください。

⚠危険 **●上下のナットを同時に締付けないでください。ナットの締付力が不足し、ナットの緩みが発生します。その場合、刈刃が飛散し、周囲の人や物に当り、重大な事故を招く恐れがあります。**

■バッテリの保守・点検のしかた。

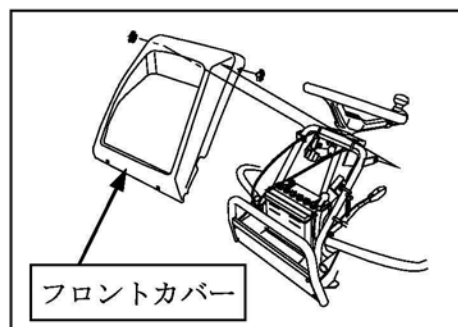
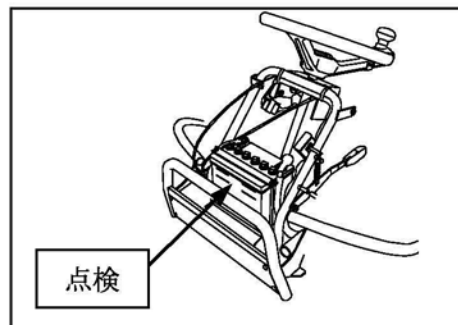
⚠警告

●ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

●バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ）以下になったまま使用を続けたり充電を行なうと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。

●バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

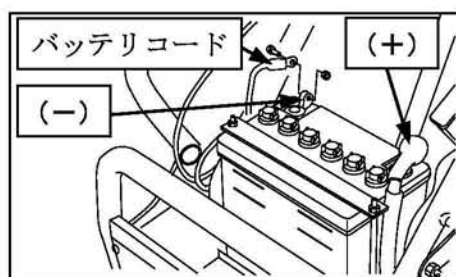
●点検のしかた

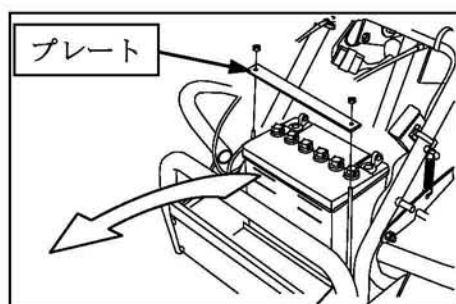
(1)　車体を水平な場所に停車させ、フロントカバーを取外してください。

(2)　バッテリ液の量を点検し、不足している場合は、バッテリ液を補給してください。

●充電のしかた

⚠注意
●バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷のほか、配線などを傷めることがあります。
●バッテリコードを取外すときは（－）側から取外し、取付けるときは、（＋）側から取付けてください。逆にすると、工具が本機にあたった場合にショートし、発火する恐れがあります。
●バッテリと充電器を接続する場合、（＋）（－）を間違えないでください。ヒューズが飛び、充電ができなくなります。
●バッテリを本機に取付けるときには、バッテリコードの（＋）（－）を間違えない様に元通りに配線してください。

重要
●急速充電は、短時間で放電量の幾分かを補うために、大電流で充電する方法です。この方法は応急処置として行なうものです。作業が終わったら、なるべる早く正しく補充電を行なっておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。
●バッテリの充電は、使用する充電器の取扱説明書の指示にしたがって行なってください。

(1)　車体を水平な場所に停車させ、フロントカバーを取外してください。

(2)　バッテリコードを（－）側から外してください。

(3)　バッテリを固定しているプレートを外して、バッテリを本機から取り出し、充電を行なってください。

バッテリを取付けるときは、取外したときと逆手順で、バッテリコードは（＋）側から取付けてください。

手入れと格納

⚠危険 ●火気のある場所、および高温な場所に本製品およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となります。

⚠警告 ●作業が終了して、シートカバー等を車体にかけるときは、高温部が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

重要 ●洗車の際、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部等には高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ・部品の変形を起こす恐れがあります。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

(1)　車体はきれいに清掃しておきましょう。
(2)　格納はできる限り屋内にしてください。屋外に放置する場合は、防水カバーなどをかけて保管してください。
(3)　駐車ブレーキを必ずかけてください。
(4)　厳寒時はバッテリを外し、暖かい室内等に保管すると始動時に効果があります。

重要 ●凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

■長期格納

長い間（３０日以上）使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

●**車両**

(1)　**〈定期点検整備箇所一覧表〉**にしたがって各箇所の点検を行ない、不具合があれば整備します。（本書３９～４２ページ参照。）

(2)　コンクリート、もしくは固い乾燥した地面の上に駐車ブレーキをかけて駐車してください。

(3)　湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時には、本機にカバーをかけてください。

(4)　給脂箇所に給脂してください。（本書４８ページ参照。）

(5)　外面を油を含ませた布で清掃し、錆びやすい部分は注油してください。

(6)　エンジンスイッチからキーを抜いてください。

(7)　保管中は定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。（本書５１ページ参照。）

●**バッテリ**

(1)　車体からバッテリを取外してください。（本書６７ページ参照。）

(2)　バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充してください。

(3)　直射日光の当らない、低温で乾燥した場所に保管してください。

重要　**●バッテリが完全に放電する前に充電することで、バッテリを長持ちさせる事ができます。**

●**エンジン**

重要　**●気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると、燃料が劣化し、始動不良および回転不調が生じますので気化器、および燃料タンク内の燃料を抜取ってください。また、長期間放置した燃料は、使用しないでください。**

(1)　燃料タンク内の燃料を給油口から抜取ってください。

(2)　燃料コック下に容器を置き、燃料フィルタポットを外し、燃料フィルタポット、およびフィルタを清掃してください。（本書５０ページ参照。）

(3)　気化器内の燃料を抜いてください。（「エンジン取扱説明書」参照。）

(4)　エアクリーナの整備を行なってください。（「エンジン取扱説明書」参照。）

(5)　エンジンオイルの交換を行なってください。（本書４４ページ参照。）

不調時の対応のしかた

不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の**〈不具合診断表〉**を参照して適切な処置をしてください。**〈不具合診断表〉**に掲載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置を行なっても不具合が解消されない場合には「お買いあげ先」まで連絡してください。

処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては「お買いあげ先」に依頼してください。

〈不具合診断表〉

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン	エンジンがかからない	刈高さ調整レバーが「エンジン始動」の位置になってない。（安全装置が作動している。）	「エンジン始動」の位置にする。（２４ページ参照）
		ブレーキペダルを踏んでいない。(安全装置が作動している。)	ブレーキペダルを踏む。（２３ページ参照）
		バッテリの過放電。	バッテリを充電する。(６７ページ参照)
			バッテリを交換する。
		バッテリケーブルの外れ。	接続する。
		ヒューズ切れ。	交換する。（８０ページ参照）
		電気配線(コネクタ)の接触不良、または断線。	修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
	エンジンがかかりにくい	燃料不足。	補給する。（２２ページ参照）
		燃料への空気や水の混入。	パイプ、および締め付けバンドを点検する。
		燃料の吸い込みすぎ	時間をおいて始動する。
		エンジンオイルの不足、または品質不良。（オイル粘度高い。）	補充、または交換する。（４３，４４ページ参照）
		点火プラグの汚れ、または火花の飛び不足による着火不良。	清掃、または交換する。（４９ページ参照）
		バッテリーの容量不足。（セルモータの起動不良。）	バッテリ液を補充する。（６６ページ参照）
			バッテリを充電する。（６７ページ参照）
		燃料系統内に不純物が混入。	燃料フィルタポットを清掃する。（５０ページ参照）
	すぐエンストする	燃料不足。	補給する。（２２ページ参照）
	エンジンが突然停止した	燃料切れ。	補給する。（２２ページ参照）
		燃料系統内に不純物が混入。	燃料フィルタポットを清掃する。（５０ページ参照）
		エンジンオイル不足、またはオイル劣化による焼き付き。	修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
	アイドリング不良（回転が不安定）	→	「お買いあげ先」へお問い合わせ下さい。
	出力または加速不足	Ｖベルトの緩み。	調整する。（５１、５３ページ参照）
		キャブレタの詰まり。	清掃する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
		エアクリーナーの目詰まり。	清掃、または交換する。（４９ページ参照）

〈不具合診断表〉

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
エンジン	エンジン、またはエンジン付近からの異常音・振動	エンジン取付けボルトの緩み。	点検、および増し締めする。
		その他。	「お買いあげ先」へお問い合わせください。
	エンジンオイルの消費が早い	エンジンオイルの漏れ。	点検、および修理する。
	エンジンのオーバーヒート	エンジンオイルの不足。	補給する。（４３ページ参照）
		吸気スクリーン・冷却フィンの目詰まり。	清掃する。（「エンジン取扱説明書」参照）
	燃料の消費が早い	燃料系統からの燃料漏れ。	点検、および修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください。）
		エアクリーナの目詰まり。	清掃、または交換する。（４９ページ参照）
	黒煙が大量に出る(排気状態の不良)	チョークが完全に開いていない。	「全開」の位置にする。（２４ページ参照）
		圧縮不良。	点検、および修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
		エアクリーナの目詰まり。	清掃、または交換する。（４９ページ参照）
		エンジンオイルが入り過ぎている。	点検後、オイル量を調整する。（４３，４４ページ参照）
		燃料不良。	燃料を交換する。（６９ページ参照）
	白煙、または青煙がでる(排気状態の不良)	エンジンオイルが入り過ぎている。	点検後、オイル量を調整する。（４３，４４ページ参照）
		燃料不良。	燃料を交換する。（６９ページ参照）
		シリンダ、ピストンリングの摩耗。	点検、および修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
動力伝達装置	ＨＳＴペダル・ＨＳＴレバーを操作しても車体が動かない	走行チェンジレバーが「Ｎ」になっている。	低速、または高速に入れる。（２７ページ参照）
		ＨＳＴオイルが不足している。	補給する。（４７ページ参照）
		駐車ブレーキがかかっている。	解除する。（１８ページ参照）
	ＨＳＴペダル・ＨＳＴレバーを中立にしても車体が動く	ＨＳＴ変速リンクの中立位置調整のズレ。	調整する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
ブレーキ	効きが悪い	ブレーキペダルの調整不良。	調整する。（５６ページ参照）
		タイヤの摩耗。	タイヤを交換する。
走行装置	ハンドルが重い	タイヤ空気圧の調整不良。	調整する。（５１ページ参照）
		キングピンの給脂不足。	給油する。（４８ページ参照）
		ステアリングギヤ内部の不具合。	修理する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）
	直進性が悪い	タイロッドの調整不良。	調整する。（「お買いあげ先」へ依頼してください）

〈不具合診断表〉

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
車体	車体の異常振動	タイヤ空気圧の調整不良。	空気圧を調整する。（５１ページ参照）
		タイヤ取り付けボルトの緩み。	増し締めする。
		ホイールベアリングの破損。	交換する。 （「お買いあげ先」へ依頼してください）
		タイヤの亀裂。	交換する。
		刈刃の破損。	交換する。（６４，６５ページ参照）
刈草装置	刈草がうまく放出されない	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
		草が長い。	刈高さを高くして、２度刈をする。
		刈高さが低い。	刈高さを高くする。
		エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
		作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	刈残しがでる	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
		エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。 （エンジン回転をチェックする）
		草が長い。	２度刈りをする。
		刈刃の摩耗、破損。	新しい刈刃と交換する。 （６４、６５ページ参照）
		刈刃カバー内面への草の堆積。	刈刃カバー内面を清掃する。
	土削りを発生する	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
		旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
		地形にうねりがある。	草刈作業のパターン(刈取方向等)を変える。
		地形に起伏（凹凸）が多い。	刈高さを高くする。
		ナイフブレードの曲がり。	新しいナイフブレードと交換する。 （「お買いあげ先」へ依頼してください）
	ベルトがスリップする	ベルト張力が低い。	ベルト張力を調整する。（５３ページ参照）
		刈刃カバー内に草が詰まっている。	詰まった草を取出し、刈刃カバー内を清掃する。
		プーリ部への草の堆積。	プーリ部を清掃する。
		ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。（５４ページ参照）
	振動が大きい	刈刃カバー内、およびプーリ部に草が堆積している。	刈刃カバー、およびプーリ部を清掃する。
		ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。（５４ページ参照）
		プーリの破損。	新しいプーリに交換する。
		刈刃の破損。	新しい刈刃に交換する。 （６４、６５ページ参照）

〈不具合診断表〉

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
刈草装置	刈取り作業負担が大きい	刈刃のバランスが悪い。	新しい刈刃に交換する。 （６４、６５ページ参照）
		エンジン回転が低い。	エンジン回転数を最高にする。 （エンジン回転数をチェックする）
		作業速度が速い。	作業速度を落とす。
		刈刃の回転軸回りに草が堆積、または巻き付いている。	刈刃を清掃する。
		ナイフブレードの曲がり。	新しいナイフブレードと交換する。 （「お買いあげ先」へ依頼してください）
	刈高さ調整レバーの操作が重い	刈草装置の吊り下げアーム支点部の給脂不足。	給脂する。（４８ページ参照）
		刈刃カバー上面に小石、刈草などのゴミが堆積している。	掃除する。
		刈刃カバー内面への草の堆積。	刈刃カバー内面を清掃する。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、乗用草刈機を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1)　適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

(2)　就業条件

①安全作業の心得
農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件
次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。
●精神病者
●酒気をおびた者
●若年者
●未熟練者
●過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全
暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間、及び方法等を十分に検討すること。

(3)　子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

(4) 安全のための機械管理

①日常の点検整備
農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

②防護装置の点検
- ●機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- ●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③掲げ装置の落下の防止
作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④整備工具の管理
点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

①引火・爆発物の取り扱い
引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

②火災予防の措置
火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

①頭の傷害防止の措置
機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置
原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置
　機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置
　多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあっては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置
　防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置
　激しい騒音の伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い
　安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1)　適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2)　作業前の注意事項

①機械の点検整備
●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全
●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業
土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3)　作業中の注意事項

①乗車等の禁止
●機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認
●運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に発進時に注意すること。

③転倒落下の防止
●圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

●動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

●刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること

⑤道路走行の安全

●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。

●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。

●悪条件の道路での高速運転の禁止

凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。

●坂道における安全確保

降坂時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、走行クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4)　終業後の注意事項

①終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②作業機のとりはずし

作業機のとりはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

③機械の安全管理

作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。

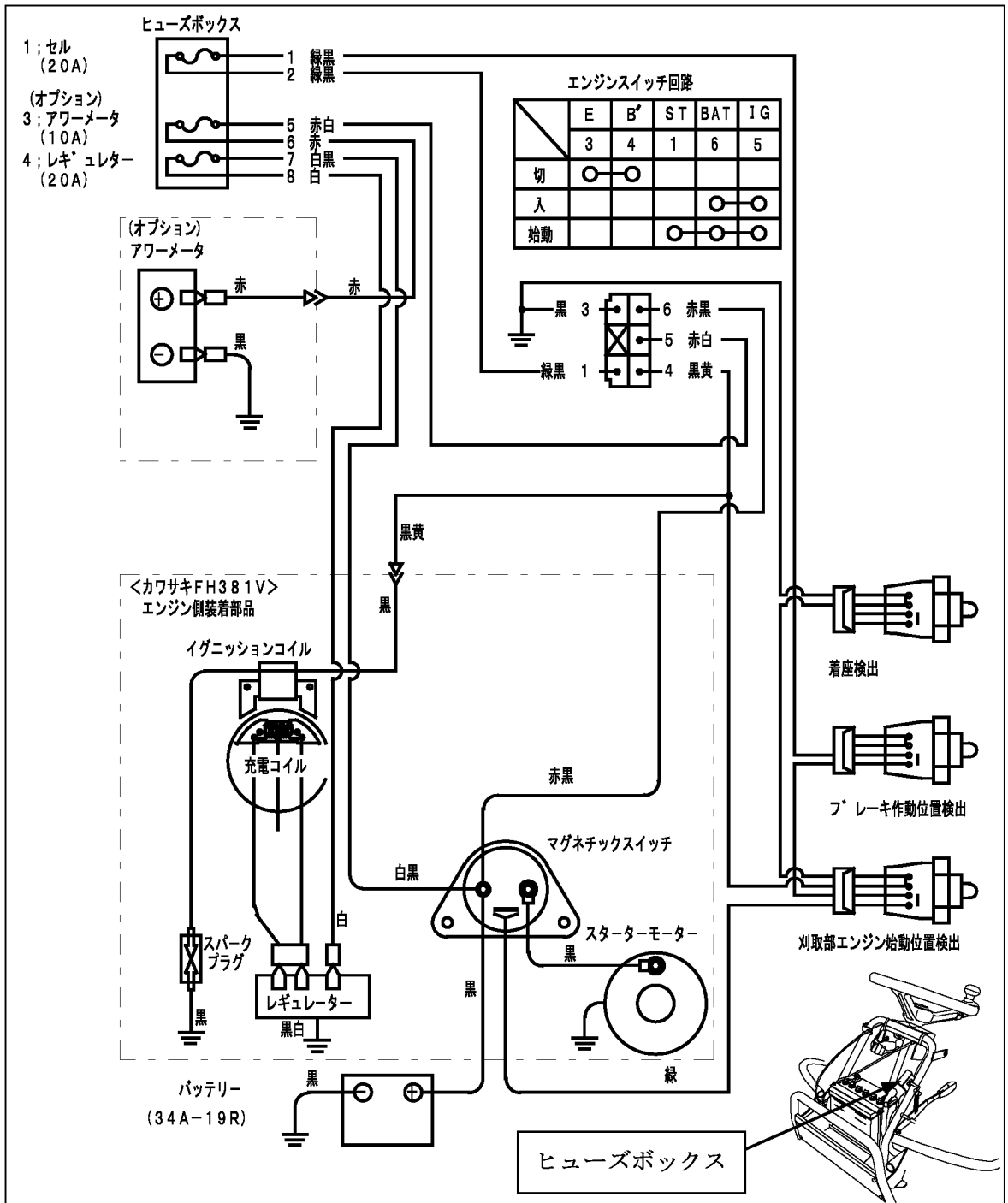
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

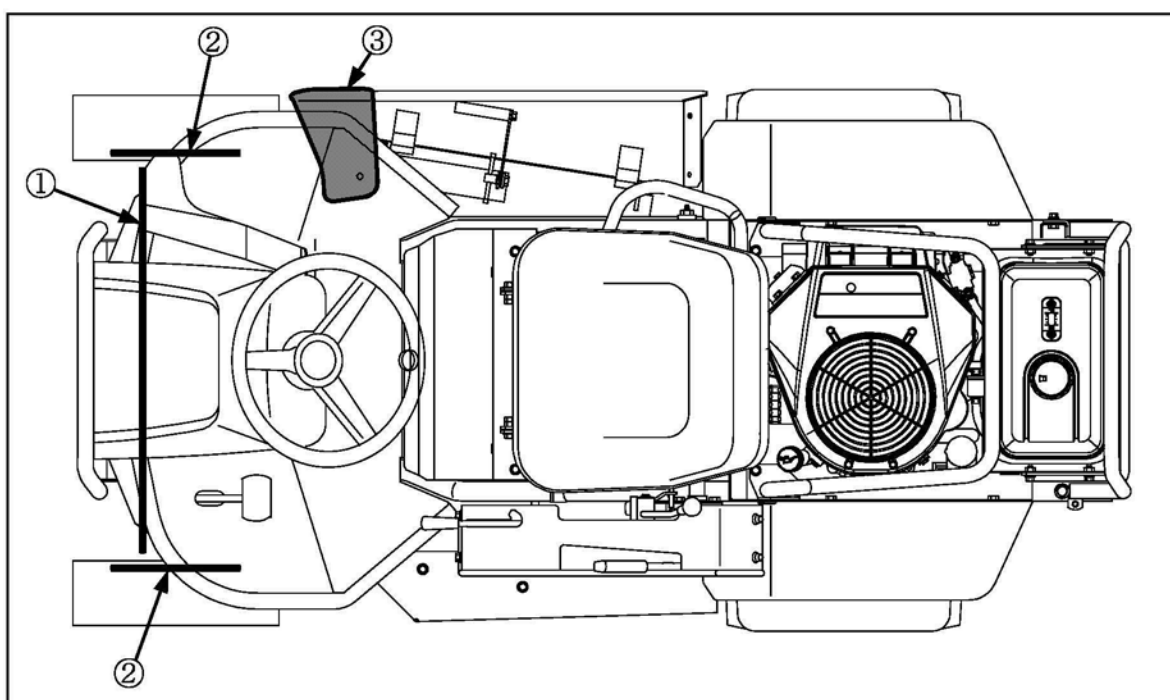
名　称			乗用草刈機	
型　式			Ｒ－８０３	Ｒ－８０３Ｈ
機体寸法	全長（ｍｍ）		１７９０	
	全幅（ｍｍ）		９２０	
	全高（ｍｍ）		８５０	
	ホイルベース（ｍｍ）		１１３５	
	トレッド（ｍｍ）		前輪：７９０	後輪：７３５
機体質量（ｋｇ）			２３５	２４０
刈取部	刈幅（ｍｍ）		８００	
	刈刃構成		フリーナイフ×２　ナイフブレード	
	刈刃固定		ロックナット方式	
	刈高（ｍｍ）		１０～８０（無段階）	
	作業クラッチ		ベルトテンション式（ブレーキ連動）	
	最大作業能率（ａ／ｈ）		副変速低速時：４６	
走行部	駆動方式		ＨＳＴ無段変速（副変速、デフロック付）	
	ブレーキ		内拡式ブレーキ	
	車速	前進（ｋｍ／ｈ）	高速：　０～１０．０	低速：　０～５．８
		後進（ｋｍ／ｈ）	高速：　０～６．０	低速：　０～３．５
	車輪	前輪	３．５０－７（φ３５０）	
		後輪	１６×７．００－８（φ４００）	
	操舵方式		ノブ付き丸ハンドル　ラック＆ピニオン機構	
	使用最大傾斜角度（度）		１５	
エンジン	メーカー		カワサキ	
	型式		ＦＨ３８１Ｖ （空冷Ｖ型２気筒ＯＨＶガソリンエンジン）	
	出力（ｋＷ／ｐｓ）		９．７／１３．０	
	燃料タンク容量（リットル）		６．４	
ハンドル上下調節（ｍｍ）			０・３０・６０（３段階）	
シート	前後調整（ｍｍ）		３０	
ＨＳＴレバー			－	標準装備

配線図

ヒューズボックス
1；セル
（20A）
（オプション）
3；アワーメータ
（10A）
4；レギュレター
（20A）
1 緑黒
2 緑黒
5 赤白
6 赤
7 白黒
8 白
エンジンスイッチ回路
E B′ ST BAT IG
3 4 1 6 5
切
入
始動
（オプション）
アワーメータ
赤
赤
黒
黒 3
6 赤黒
5 赤白
緑黒 1
4 黒黄
黒黄
黒
<カワサキFH381V>
エンジン側装着部品
イグニッションコイル
充電コイル
着座検出
ブレーキ作動位置検出
赤黒
マグネチックスイッチ
白黒
白
スパーク
プラグ
レギュレーター
黒
黒白
スターターモーター
黒
黒
刈取部エンジン始動位置検出
緑
バッテリー
（34A－19R）
黒
ヒューズボックス

主な消耗部品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、「お買いあげ先」にご注文ください。

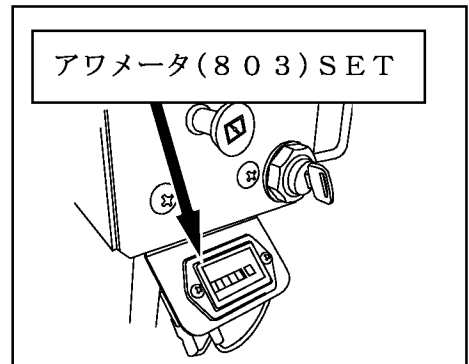
項目				部品番号	個数／台	備考
刈刃	ナイフブレード			0673-730-011-0	1	
刈刃	ナイフＳＥＴ			0670-980-200-0A	1	
刈刃	ナイフボルトＳＥＴ			0670-980-300-0	2	
エンジン	エアクリーナ	フォームエレメント		11013-7034	1	カワサキ部品番号
エンジン	エアクリーナ	ペーパーエレメント		11013-7017	1	カワサキ部品番号
エンジン	オイルフィルタ			49065-2078	1	カワサキ部品番号
エンジン	スパークプラグ			92070-7003	2	カワサキ部品番号 CHAMPION　RCJ8Y
エンジン	燃料タンク内フィルター			49019-2107	1	カワサキ部品番号
エンジン	燃料ラインフィルタ			49019-7001	1	カワサキ部品番号
Vベルト	刈刃	Vﾍﾞﾙﾄ(B-74)W800		0673-710-012-0	1	SB74　W800
Vベルト	走行	Vﾍﾞﾙﾄ(B-32)W800		0670-510-012-0	1	SB32　W800
バッテリ３４Ａ（Ｇ）				0453-455-011-2B	1	34A-19R
タイヤ	ＡＳＳＹ	ゼンリン（Ｒ）ＡＳＳＹ		0670-320-210-0C	1	
タイヤ	ＡＳＳＹ	ゼンリン（Ｌ）ＡＳＳＹ		0670-320-200-0C	1	
タイヤ	ＡＳＳＹ	コウリン（Ｒ）ＡＳＳＹ		0670-340-210-0C	1	
タイヤ	ＡＳＳＹ	コウリン（Ｌ）ＡＳＳＹ		0670-340-200-0C	1	
タイヤ	タイヤ	前	ﾀｲﾔ(3.50-7-2PR)	0670-320-206-0	2	
タイヤ	タイヤ	後	ﾀｲﾔ	0400-301-221-0B	2	
タイヤ	チューブ	前	ﾁｭｰﾌﾞ	0670-320-205-0	2	
タイヤ	チューブ	後	ﾁｭｰﾌﾞ SET	0400-301-240-0	2	
燃料ホース	ﾈﾝﾘｮｳﾎｰｽ(6×300)			0673-420-011-0	1	タンク～コック
燃料ホース	ﾈﾝﾘｮｳﾎｰｽ(6×215)			0324-420-017-2Ｂ	1	コック～エンジン

項目		部品番号	個数／台	備考
ワイヤ類	ケーブル（スロットル）	0670-640-011-0A	1	
	ケーブル（チョーク）	0670-650-011-0A	1	
	ケーブル（ブレーキ）	0671-620-011-0	1	
	ケーブル（デフロック）	0671-680-011-0A	1	
	ケーブル（クラッチ／カッター）	0671-760-012-0A	1	
	ケーブル（ブレーキ／カッター）	0671-760-013-0A	1	
	ケーブル（フリーロック）	0671-770-012-0	1	
	ケーブル（ハンドレバー/803）	0673-956-260-0	1	
ゴムカバー	①フロントゴム	0671-740-015-0	1	
	②フロントタイヤゴム	0670-310-011-0	2	
	③サイドゴム（ＦＲ）	0673-740-015-0	1	

注文部品の紹介

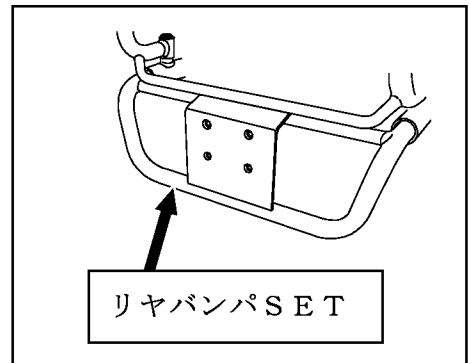
注文部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、「お買いあげ先」にご注文ください。

■アワメータ（８０３）ＳＥＴ

●使用時間の管理が行なえます。
●オイル交換など、点検時期の目安になります。

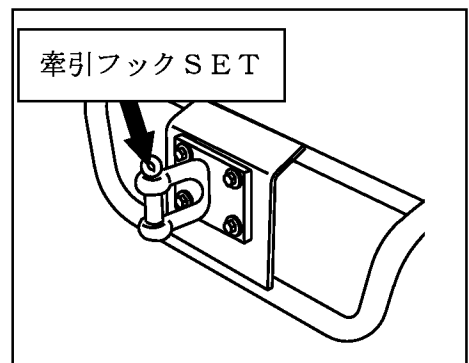
部品番号：０６７３－９５０－２００－０

■リヤバンパＳＥＴ

●機体の後方をガードします。
●牽引フックの取付ベースとして使用します。

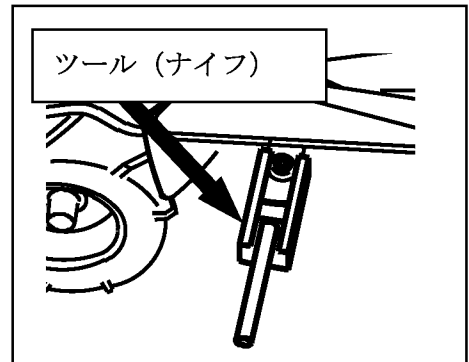
部品番号：０６７３－９５１－２００－０

■索引フックＳＥＴ

●ぬかるみ脱出時などの索引用として使用できます。

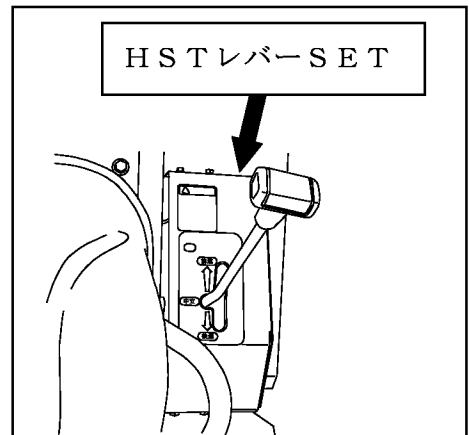
部品番号：０６７０－９６０－２００－０

※牽引フックＳＥＴの取付には、リヤバンパＳＥＴも必要になります。

■ツール（ナイフ）

●ナイフ（刈刃）の取付、取外しの作業が安全、簡易に行なえます。

部品番号：０６７０－９８９－２００－０

■ＨＳＴレバーＳＥＴ

●レバーを前方に倒すと前進し、後方に倒すと後進します。レバー角度を調整することで走行速度を無段階に調整することができます。
●Ｒ－８０３Ｈでは標準装備しています。

部品番号：０６７３－９５６－２００－０

困ったり、わからないことがあれば

販売店

住所　〒　　－

Tel　　－　　－

担当；

までご連絡ください。

型　　式	
製造番号	

ご購入日	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する

株式会社アテックス

本　　社	愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791－8524 TEL（089）924－7161（代）FAX（089）925－0771 TEL（089）924－7162（営業直通） お客様ダイヤル　0120－870866　E-mail:atexhome@atexnet.co.jp ホームページ：http://www. atexnet.co.jp /
東北営業所	岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第１１地割北川５０５－１　〒028－3621 TEL（019）697－0220（代）FAX（019）697－0221 E-mail:tohokugrp@m2.atexnet.co.jp
関東支店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋６６３３　〒306－0313 TEL（0280）84－4231（代）FAX（0280）84－4233 E-mail:kantogrp@m2.atexnet.co.jp
中部営業所	岐阜県大垣市本今５丁目１２８　〒503－0931 TEL（0584）89－8141（代）FAX（0584）89－8155 E-mail:kansaigrp@m2.atexnet.co.jp
中四国支店	愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791－8524 TEL（089）924－7162　FAX（089）925－0771 E-mail:chuushikokugrp@m2.atexnet.co.jp
九州営業所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水１２６２－１　〒869－1102 TEL（096）292－3076（代）FAX（096）292－3423 E-mail:kyushugrp@m2.atexnet.co.jp
部品センター	愛媛県松山市馬木町８９９－６　〒799－2655 TEL（089）979－5910（代）FAX（089）979－5950 E-mail:partsgrp@m2.atexnet.co.jp

部品コード	0673-940-011-0